

泉大津市文化財調査報告21

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 9

1991・3

泉大津市教育委員会

泉大津市文化財調査報告21

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 9

1991・3

泉大津市教育委員会

例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査記録である。
2. 本調査は、泉大津市が国庫補助事業及び、大阪府補助事業（総額1,500,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として、計画・実施したものである。
3. 本調査は下記の構成で実施した。
調査主体者 泉大津市教育委員会教育長 藤原勇三
調査担当者 泉大津市教育委員会社会教育課 坂口昌男
原島麻実
調査員 辻川陽一
事務局 泉大津市教育委員会社会教育課
4. 本事業は、平成2年度事業として、平成2年4月5日に着手し、平成3年3月31日に完了した。
5. 本書の作成は、坂口・原島が分担して行った。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査の状況	1
第2章 地理・歴史的環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	9
第3章 発掘調査報告	12
第1節 池上・曾根遺跡	12
第2節 豊中遺跡	23
第3節 虫取遺跡	32
第4節 大園遺跡	36
第5節 板原遺跡	38
第6節 池浦遺跡	43
第7節 七ノ坪遺跡	45
第8節 東雲遺跡	49
第9節 苅田城跡	51
参考文献	56

插 図

第1図 遺跡分布図	8
第2図 池上・曾根遺跡調査地点図	12
第3図 池上・曾根遺跡第1地点掘削位置図	13
第4図 池上・曾根遺跡第1地点西壁断面図	14
第5図 池上・曾根遺跡第1地点出土遺物	16
第6図 池上・曾根遺跡第1地点出土遺物	18
第7図 池上・曾根遺跡第1地点出土遺物	19
第8図 池上・曾根遺跡第2地点掘削位置図	20

第9图	池上・曾根遺跡第2地点北壁断面图	20
第10图	池上・曾根遺跡第3地点掘削位置图	21
第11图	池上・曾根遺跡第3地点南壁断面图	21
第12图	池上・曾根遺跡第4地点掘削位置图	22
第13图	池上・曾根遺跡第4地点南壁断面图	22
第14图	豊中遺跡調査地点图	23
第15图	豊中遺跡第1地点掘削位置图	24
第16图	豊中遺跡第1地点北壁断面图	25
第17图	豊中遺跡第2地点掘削位置图	25
第18图	豊中遺跡第2地点南壁断面图	26
第19图	豊中遺跡第3地点掘削位置图	27
第20图	豊中遺跡第3地点南壁断面图	27
第21图	豊中遺跡第4地点掘削位置图	28
第22图	豊中遺跡第4地点断面图	29
第23图	豊中遺跡第5地点掘削位置图	29
第24图	豊中遺跡第5地点南壁断面图	30
第25图	豊中遺跡第6地点掘削位置图	31
第26图	豊中遺跡第6地点東壁断面图	31
第27图	虫取遺跡調査地点图	32
第28图	虫取遺跡第1地点掘削位置图	34
第29图	虫取遺跡第1地点断面图	34
第30图	虫取遺跡第2地点掘削位置图	35
第31图	虫取遺跡第2地点西壁断面图	35
第32图	大園遺跡調査地点图	36
第33图	大園遺跡調査地点掘削位置图	37
第34图	大園遺跡調査地点南壁断面图	38
第35图	板原遺跡調査地点图	39
第36图	板原遺跡第1地点掘削位置图	40

第37図	板原遺跡第1地点北壁断面図	40
第38図	板原遺跡第2地点掘削位置図	41
第39図	板原遺跡第2地点東壁断面図	42
第40図	板原遺跡第3地点掘削位置図	43
第41図	板原遺跡第3地点西壁断面図	43
第42図	池浦遺跡調査地点図	44
第43図	池浦遺跡調査地点掘削位置図	45
第44図	池浦遺跡調査地点西壁断面図	45
第45図	七ノ坪遺跡調査地点図	46
第46図	七ノ坪遺跡調査地点掘削位置図	47
第47図	七ノ坪遺跡調査地点断面図	48
第48図	七ノ坪遺跡出土遺物	49
第49図	東雲遺跡調査地点図	50
第50図	東雲遺跡調査地点掘削位置図	51
第51図	東雲遺跡調査地点北壁断面図	52
第52図	苅田城跡調査地点図	53
第53図	苅田城跡第1地点掘削位置図	54
第54図	苅田城跡第1地点断面図	55
第55図	苅田城跡第2地点掘削位置図	55
第56図	苅田城跡第2地点北壁断面図	56

挿 表

表1	遺跡別届出件数	1
表2	遺跡別調査件数	2
表3	平成2年度調査一覧表	2
表4	平成元年度調査一覧表(追加分)	6
表5	遺物観察表	56

図 版

- 1……………池上・曾根遺跡第1地点
- 2……………池上・曾根遺跡第2地点調査坑 池上・曾根遺跡第3地点調査坑
- 3……………池上・曾根遺跡第4地点調査坑 豊中遺跡第1地点調査坑
- 4……………豊中遺跡第2地点調査坑 豊中遺跡第3地点調査坑
- 5……………豊中遺跡第4地点第2トレンチ 豊中遺跡第5地点調査坑
- 6……………豊中遺跡第6地点調査坑 虫取遺跡第1地点第1トレンチ
- 7……………虫取遺跡第2地点調査坑 大園遺跡調査坑
- 8……………板原遺跡第1地点調査坑 板原遺跡第2地点調査坑
- 9……………板原遺跡第3地点調査坑 池浦遺跡調査坑
- 10……………七ノ坪遺跡第1トレンチ遺物出土状況 東雲遺跡調査坑
- 11……………苜田城跡第1地点第1トレンチ 苜田城跡第2地点調査坑
- 12……………池上・曾根遺跡第1地点出土遺物

第1章 埋蔵文化財調査の状況

平成2年度における埋蔵文化財発掘届出等の件数及び調査件数は、表1、2のとおりである。埋蔵文化財発掘届出等件数は、平成3年1月31日現在で167件と昨年度同時期（165件）とほぼ同件数である。この内訳を見ると、個人住宅建設は昨年と同数の35件、電話・電気工事は9件、工場・倉庫建設は2件、店舗・事務所建設は5件増加したのに対して、ガス・水道工事は15件の減である。工事種別の比率は、個人住宅建設関連工事の、個人住宅建設21%（昨年21%）、ガス・水道工事44%（同53%）、電話・電気工事11%（同6%）と合計76%を占め、全体の3/4にあたり、昨年と同様である。これらの工事は、掘削深度が浅いか、掘削面積が狭小なため、その対応として立会調査がほとんどであった。又発掘調査も部分調査のみで、開発区域全体にわたる発掘調査は1件もなかった。以上の工事の他に、目立ったものとして、昨年と同様、本年も共同住宅の建設が数%を占めている。これは、泉州地域が、関西国際空港関連工事による地価高騰により、所有者の土地売却ひかえと、有効利用の結果と思われる。

表1 遺跡別届出件数

(平成2年4月1日～平成3年1月31日)

遺跡名	件数	内訳						
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅	その他
池上・曾根遺跡	26	7	10	4	2		2	1
豊中遺跡	37	5	19	2	1	6	2	2
虫取遺跡	30	9	11	6	3	1		
大園遺跡	9	2	3	1		1	1	1
板原遺跡	10	1	2		2	2	2	1
池浦遺跡	23	6	9	4		3	1	
穴師遺跡	3	1	1		1			
七ノ坪遺跡	5		4	1				
東雲遺跡	8	1	6		1			
穴田遺跡	4	3	1					
助松遺跡	5		4				1	
荇田城跡	3				1		2	
城の山	1				1			
森遺跡	3		3					
計	167	35 (21%)	73 (44%)	18 (11%)	12 (7%)	13 (8%)	11 (6%)	5 (3%)

本年度の調査必要届出件数に対する調査実施件数の比率は51%と昨年度（43%）より伸び、年々上昇の傾向にあるが、立会調査の指示に対する事業者から市教委への連絡件数は、依然低い。

表2 遺跡別調査件数

(平成2年4月1日～平成3年1月31日)

遺跡名	件数	内 訳		
		発掘調査	立会調査	慎重工事
池上・曾根遺跡	11	3	5	3
豊中遺跡	20	6	14	
虫取遺跡	15	1	9	5
大園遺跡	5	1	4	
板原遺跡	6	3	3	
池浦遺跡	10	2	5	3
穴師遺跡	2		2	
七ノ坪遺跡	1			1
東雲遺跡	2	1	1	
穴師薬師寺跡	1		1	
穴田遺跡	1		1	
荻田城跡	3	2	1	
城の山	1		1	
その他	1	1		
計	79	20	47	12

表3 平成2年度調査一覧表

(平成2年4月1日～平成3年1月31日)

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考(調査番号)
4・2	北豊中町2丁目11-17	豊中遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・3	豊中955-2	豊中遺跡	発掘調査	事務所付住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器・瓦出土(9007)
4・5	東雲町78-1	東雲遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。須恵器・瓦器出土(9008)
4・7	東豊中町1丁目93 ⁻³ ₋₅	豊中遺跡	発掘調査	事務所建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器出土(9009)
4・10	我孫子617-1 板原1001	板原遺跡	発掘調査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器出土(9010)
4・12	我孫子町 ⁵²⁵ ₅₃₁	穴師薬師寺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
4・25	虫取121	虫取遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。

月 日	調 査 地 番	遺 跡 名	調 査 内 容	備 考 (調査番号)
4・25 26	旭町185-2外	遺跡範囲外	発掘調査	駅東再開発に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器出土 (9011)
5・1	豊中785	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・8	北豊中町3丁目7-38	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
5・10	曾根町1丁目144-2	池上曾根遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9012)
5・18	池浦町4丁目9-5	池浦遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・4 5	下条町16-1	池浦遺跡	発掘調査	病院建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9013)
6・12	曾根町1丁目59	池上曾根遺跡	発掘調査	住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9014)
6・18	綾井45	大園遺跡	立会調査	擁壁築造工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
6・27	曾根町1丁目 ¹⁰⁵⁻³ 425の一部	池上曾根遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・6	北豊中町3丁目975-1	豊中遺跡	発掘調査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器・瓦器出土 (9015)
7・6	東豊中町2丁目962-5	豊中遺跡	立会調査	油水分離槽設置工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・7	東豊中町2丁目962-5	豊中遺跡	立会調査	広告塔設置工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・9	東豊中町1丁目67-2	豊中遺跡	立会調査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・9	森町2丁目10	池上曾根遺跡	立会調査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・10	虫取23-1	虫取遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・16	末広町1丁目 ³³²⁻¹⁴ 332-24	大園遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9016)
7・21	北豊中町3丁目1	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・24	池浦町5丁目10-25	穴師遺跡	立会調査	ガス管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
7・25	豊中972-5	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

月 日	調 査 地 番	遺 跡 名	調 査 内 容	備 考 (調査番号)
7・31	池浦町1丁目 ⁹⁵⁻¹ 96-1	虫 取 遺 跡	発 掘 調 査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9017)
8・2	762-1 豊中764 765	苺 田 城 跡	発 掘 調 査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9018)
8・3	我孫子403-3	板 原 遺 跡	立 会 調 査	駐車場造成工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
8・6	北豊中町2丁目 ⁹⁸⁶⁻¹ 986-6	豊 中 遺 跡	発 掘 調 査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・瓦器出土(9019)
8・20	板原1247-1	板 原 遺 跡	発 掘 調 査	事務所建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9020)
8・22	字多1046-63	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	給水管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・28	北豊中町3丁目975-1	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	給排水管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
8・29	下条123	池 浦 遺 跡	立 会 調 査	寄宿舎建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・3	北豊中町2丁目380-17	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・3	北豊中町2丁目380-17	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・5	高津町 ¹³³ 134-1	城 の 山 遺 跡	立 会 調 査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・5	北豊中町3丁目978-7	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	給水管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
9・12	末広町2丁目 ¹⁴³⁻¹⁹ 144-17	大 園 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・25	字多1046-64	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・5	板原1081	板 原 遺 跡	発 掘 調 査	工場建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9021)
10・5	北豊中町2丁目380-17	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	給水管理設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・12	末広町1丁目 ³³¹⁻²³ 332-36	大 園 遺 跡	立 会 調 査	事務所建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・15	我孫子192の一部	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	事務所建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

月 日	調 査 地 番	遺 跡 名	調 査 内 容	備 考 (調査番号)
10・22	板原1023	板 原 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
10・25	池浦町5丁目317-1	池 浦 遺 跡	発 掘 調 査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器出土 (9022)
11・2	豊中946-1	苺 田 城 跡	発 掘 調 査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9023)
11・5	宇多1046-41	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	住宅増築工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・5	穴田 ⁷⁶⁻¹ 76-11	板 原 遺 跡	立 会 調 査	共同住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・17	豊中 ⁷³⁴⁻¹ 734-2	苺 田 城 跡	立 会 調 査	共同住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・19	宇多1046-65	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	住宅増築工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・19	北豊中町2丁目 ³⁶⁶⁻⁴⁸ 366-49	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	社宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
11・19	末広町1丁目8-328-6	大 園 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・21	北豊中町3丁目976-9	豊 中 遺 跡	発 掘 調 査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9024)
12・7	402-9 曾根町1丁目445 446	池上曾根遺跡	発 掘 調 査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められず。(9025)
12・6	71 森町1丁目73-8	池上曾根遺跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・10	池浦町4丁目220	池 浦 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
12・10	寿町346-1	池 浦 遺 跡	立 会 調 査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・17	東雲町75-1	東 雲 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・19	豊中664-1	穴 師 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
12・21	北豊中町2丁目 ³⁶⁶⁻⁴⁸ 366-49	豊 中 遺 跡	立 会 調 査	浄化槽埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・7	東豊中町2丁目960-1	豊 中 遺 跡	発 掘 調 査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構は認められず。土師器・須恵器出土 (9101)

月 日	調 査 地 番	遺 跡 名	調 査 内 容	備 考 (調査番号)
1・11	森町2丁目232 -1 -4	池上曾根遺跡	立 会 調 査	共同住宅建設工事による調査で、基礎は盛土上になされていた。
1・18	下条町168 -12 -25	池 浦 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
1・28	豊中874-1	穴 田 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・28	我孫子187-1	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
1・31	我孫子298-4	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

表 4 平成元年度調査一覧表 (追加分)

(平成2年3月1日～平成2年3月31日)

月 日	調 査 地 番	遺 跡 名	調 査 内 容	備 考 (調査番号)
3・7	森町2丁目17-1	池上曾根遺跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
3・8	森町2丁目227-44の一部	池上曾根遺跡	立 会 調 査	住宅建設工事による掘削で、基礎掘削は盛土内におさまっていた。
3・22	豊中 668-3 669-1	穴 師 遺 跡	立 会 調 査	給水管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・24	池浦町1丁目10-17	池 浦 遺 跡	立 会 調 査	電柱建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。
3・26	239-2、240、 我孫子241-2、242-2、 243-1、244	虫 取 遺 跡	発 掘 調 査	倉庫建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。(9006)
3・31	板原1048-104	虫 取 遺 跡	立 会 調 査	ガス管埋設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められず。

第2章 地理・歴史的環境

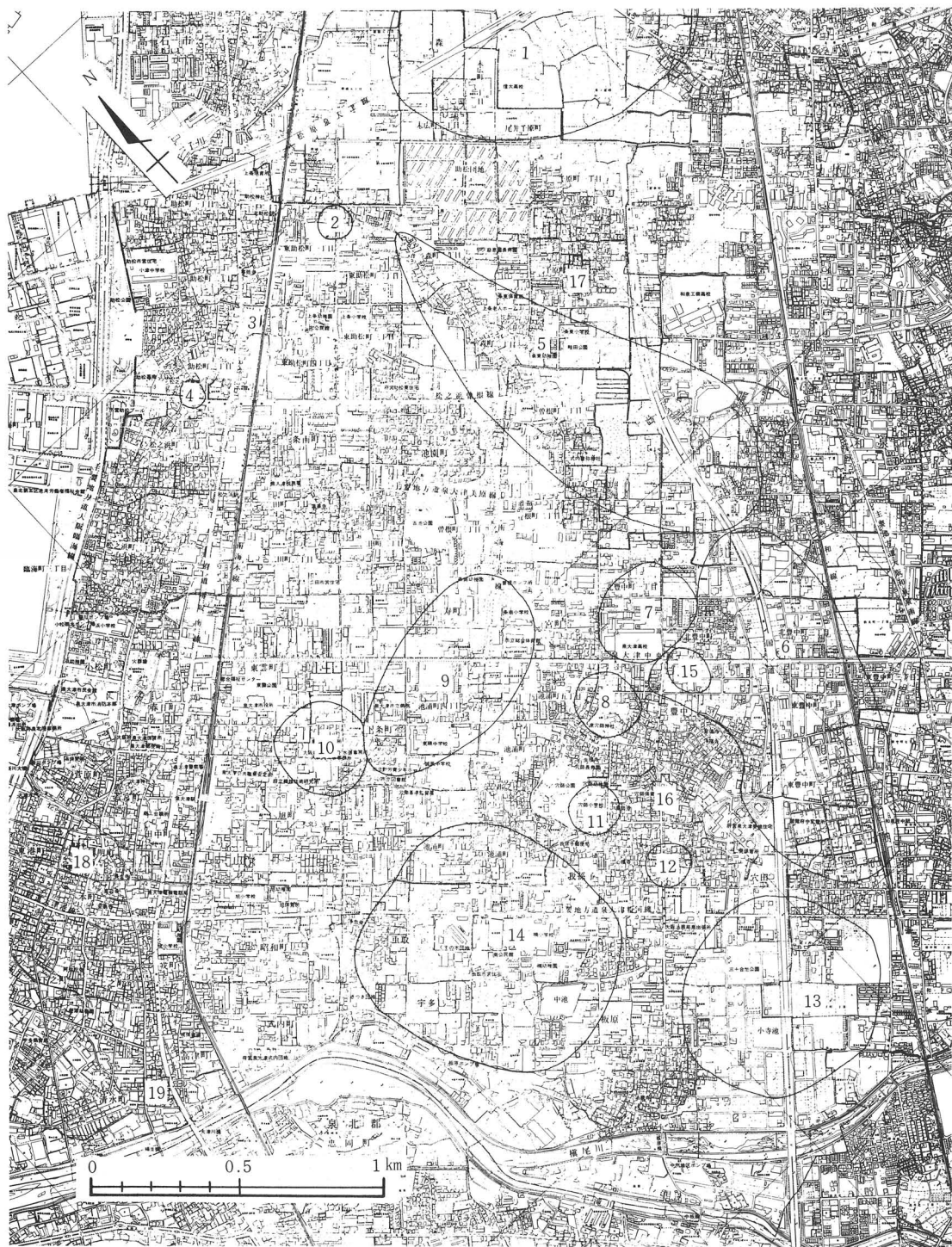
第1節 地理的環境

大阪府泉大津市は、大阪平野南部（泉州地域）の海岸部に位置する。市の西側は大阪湾に面し、北側は高石市、東側は和泉市、南側は大津川を挟んで泉北郡忠岡町と接している。本市域は、低位段丘、海岸砂礫堆及び後背低地の上に立地し、山間部を有しない。市の面積は11.74km²、人口は68,820人（平成3年1月1日現在）と小規模な存在であるが、昭和17年には、府下で7番目に市制が施行されており、早くから開けた地域でもある。

市を南北に横切って、私鉄南海電鉄南海線とJR阪和線が約2km離れてほぼ平行に走り、大阪と和歌山を結んでいる。南海線では北側から、北助松・松之浜・泉大津の3駅があり、急行の停車する泉大津駅は、難波駅から所用時間約20分と近距離にある。

この鉄道と平行して、市内西部の海岸沿いを、府道堺阪南線と大阪臨海線が、又東部を国道26号線（第2阪和国道）の道路が延びている。更に現在、湾岸線の道路が建設中である。又、市内の東西を結ぶ道路として、府道松原泉大津線・松之浜曾根線・泉大津粉河線、市道泉大津中央線があり、幹線道路が縦横にめぐっている。泉大津市の市街地は、南海電鉄線と府道堺阪南線に沿った西部に、明治以降、商工業用建物と住宅とで形成されてきた。市の東部は、水田地帯が広がり、農村集落がみられたが、昭和45年に大阪で開催された日本万国博覧会を契機に、商業都市大阪のベッドタウンとして泉州地域が注目され、宅地開発の波が押し寄せた。更に、第2阪和国道の建設と、それに伴う土地区画整理事業が豊中、板原地区で実施され、市街地化が進行している。こうして市域全体が市街化区域となり、市内に20数箇所あった溜池も、ほとんど埋め立てられ、住宅・団地・工場・公園・学校・公民館などの用地に転用されている。

この地域の地場産業の一つに、毛布・ニットを中心とする織物工業があり、特に毛布の生産高は全国の96%を占めている。又、近年、海岸部は堺・泉北臨海工業地帯として埋め立てられ、工場や倉庫が建ち並んでおり、港には、九州小倉と結ぶカーフェリーや、外国からの貨物船が入港するなど、港湾の都市としても発展しつつある。更には、泉州沖の関西国際空港建設に伴うインパクトにより、泉州全体の浮上が叫ばれている中、本市も国際総合物流センター構想、産業廃棄物処理のフェニックス計画や、既に事業が開始されている旧港再開発、泉大津駅東地区市街地再開発、繊維リソースセンター設立など、新たな飛躍を目指している。



- 1.大園遺跡 2.森遺跡 3.牛滝塚 4.助松遺跡 5.池上曾根遺跡 6.豊中遺跡 7.七ノ坪遺跡
 8.穴師遺跡 9.池浦遺跡 10.東雲遺跡 11.穴師薬師寺跡 12.穴田遺跡 13.板原遺跡 14.虫取遺跡
 15.大福寺跡 16.苜田城跡 17.千原城跡 18.真鍋城跡 19.城の山

第1図 遺跡分布図

第2節 歴史的環境

泉大津市が所在する泉州地域は、大阪平野の南部に属し、気候は温暖であったため古くから生活の場・生産の場として開けていた。それは、市内各所に所在する遺跡の数からも首肯される。現在、市内には、大園、豊中、板原、池上・曾根、池浦、虫取、東雲、七ノ坪、穴師、穴田といった集落遺跡や、穴師薬師寺、大福寺などの寺院跡、又、考古学的に確認されていないが、千原城、刈田城、真鍋城、城の山等の城址が先人の足跡として残されている。これらの市内の遺跡を中心に、周辺の遺跡にも言及しながら、この地域の歴史的環境の概略を以下に述べていく。

－ 旧石器時代 －

泉大津市内では、現在のところ旧石器時代に属する遺物は発見されていない。泉大津市・和泉市・高石市の3市にまたがる大園遺跡の段丘上より、後期旧石器時代のナイフ形石器と、旧石器終末期より縄文時代草創期・早期の有舌尖頭器が出土している^①。又、隣接する和泉市の大床遺跡からは、サヌカイト製のナイフをはじめ、石核・剥片約30個が検出された^②。和泉市伯太北遺跡・和気遺跡^③、堺市野々井遺跡・百舌鳥本町遺跡、岸和田市西山遺跡・琴山遺跡・葛城山頂遺跡・海岸寺山遺跡等で、旧石器時代に属すると思われる石器や剥片の出土がある。以上の遺跡は、段丘上や丘陵上に立地するという特徴をもっており、人々の行動範囲を示している。

－ 縄文時代 －

泉大津市においては、現在のところ縄文時代の明確な遺構は検出されていないが、板原遺跡では、後期中津式を伴う自然流路や福田K II式の遺構面、晩期の溝状遺構やピット等が報告されている^④。又、豊中遺跡でも埋積谷の旧河道内より中期末の土器片が発見されるなど、縄文人の存在を窺わせる。虫取遺跡では、晩期に属する土器が、弥生時代前期中頃の土器と共伴して出土し^⑤、縄文文化から弥生文化への過渡期の様子を示す好材料を与えてくれた。

－ 弥生時代 －

池浦遺跡は、市内で最も古い弥生時代の遺跡の一つで、前期中段階に形成された集落であり、低位段丘上に位置し、居住区は人工によるV字溝で限定されていたと思われる。この集

落は、短期間のうちにその生命を失ったようで、中期以降の土器は発見されていない。虫取遺跡も人工のV字溝が検出され、第1様式新段階から第2様式の土器が、晩期の縄文土器を伴って大量に放棄されていた^⑦。和泉市池上町から泉大津市曾根町にかけての池上・曾根遺跡は、弥生時代の全期間を通じて、集落の生成・発展過程を知らしめる遺跡である。それは、前期に集落が形成され、中期にはその周囲を環濠が圍繞し、後期になると分散の傾向を示し、やがて古墳時代の集落へと移行する様子が発掘調査で明らかにされた。又、出土品は土器・石器・木器等膨大な量で他地域の人々との交流を示すものもある。以上の重要性から昭和51年に史跡指定がなされた。この時代の水田は、七ノ坪遺跡によって、畦畔の規模や取水方法等が知られる。他に遺跡としての実態は不明であるが、中期の壺棺が出土した穴師小学校校庭遺跡^⑧や、有鉤銅釧を出土した古池遺跡^⑨^⑩（昭和61年度より豊中遺跡に含まれる）、砂丘遺跡かと思われる助松遺跡などがある。

－ 古 墳 時 代 －

泉大津市においては現在、古墳は存在しないが、古い地形図によると塚らしいものが見られ、かつては存在していた可能性もある。又、東雲遺跡からは埴輪片が出土しており、古墳もしくは祭祀遺跡との関連が考えられる。

集落遺跡は、昭和50年代に平野部で行なわれた道路建設に先立つ調査で、急激に発見例が増加した遺跡である。泉大津市における遺跡も例外ではない。古墳時代初期に属するものとして、豊中遺跡・七ノ坪遺跡・東雲遺跡があり、竪穴住居で集落は構成されている。七ノ坪遺跡は、この住居と共に、弥生時代からの伝統的墓形態である方形周溝墓や土壇墓^⑪も発見されており、高塚墳墓の被葬者と階層的差異によるものか、あるいは文化の相違に由来するものなのか問題となる^⑫ところである。この外、水田跡も検出され集落の一つのまとまりを示している。又、遺物散布地として、板原遺跡・虫取遺跡・助松遺跡・穴師遺跡などがある。

－ 飛 鳥 ・ 白 鳳 ・ 奈 良 ・ 平 安 時 代 －

豊中遺跡から、平安時代後半に属する方形井戸が1基検出され、井戸内には「田井」「田井殿」と高台部内側あるいは体部外面に墨書された内面黒色土器や、灰釉陶器・土鍋・土師器杯が埋められ、井戸の機能は失なわれていた^⑬。

白鳳時代創建とされる泉穴師神社、その神宮寺として栄え、崇敬を集めた穴師薬師寺の跡や豊中遺跡からは、平安時代末以降の瓦が出土している。穴師薬師寺は、宝亀年中に天津浦に流れつ

いた木像の薬師如来を、穴師村に草堂を建てて安置したのに始まり、平安時代の中頃に大規模となり、代々の天皇より綸旨院宣が下された寺院である。基壇が発掘され、「穴師堂」銘瓦や宋銭が出土している。豊中遺跡内には「大福寺」の小字名が残り、これは江戸時代まで存続した寺院である。板原遺跡からは平安時代の掘立柱建物が検出されている。遺物散布地として、穴師遺跡や虫取遺跡、大園遺跡があげられる。

一 鎌倉時代・室町時代 一

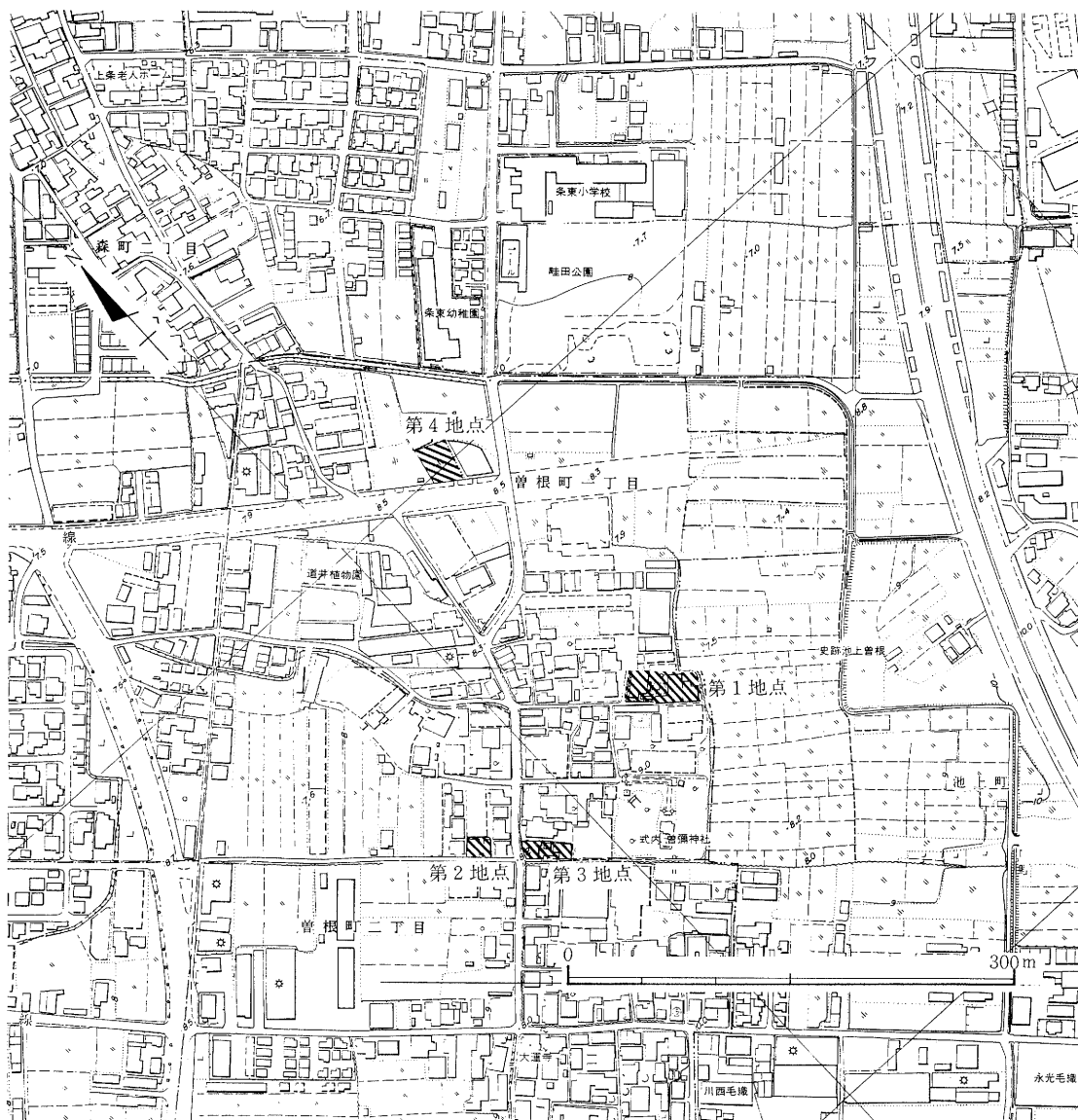
泉大津市内における中世の遺跡として、まず東雲遺跡があげられる。この遺跡は平安時代に始まり、鎌倉時代初期に至る掘立柱建物で構成される集落遺跡である。古池遺跡から、鎌倉時代の倉庫等の掘立柱建物^⑭、板原遺跡からも同時代の掘立柱建物7棟が^⑮、又、七ノ坪遺跡からも小溝群とピットが発見されている。豊中遺跡においては、土釜（羽釜）や曲物を井筒とした井戸、河原石組の井戸^⑯などから、瓦器椀、瓦質羽釜、瓦質練鉢、瓦、土師質小皿などの遺物も多数出土している。しかし、建物跡となると、特に鎌倉時代後半から室町時代にかけては、今のところ1例も確認されていない。その理由は、地面の削平によるものなのか、建物の基礎構造が痕跡を残さないものなのかのいずれかと思われるが、断言はできない。穴田遺跡は、土釜を積み上げた井戸の発見によって昭和31年に周知された遺跡^⑰であるが、その実態は不明である。遺物散布地として、虫取遺跡・穴師遺跡・池上・曾根遺跡などがある。

第3章 発掘調査報告

第1節 池上・曾根遺跡

I 遺跡の概要

池上・曾根遺跡は、和泉市池上町に於て水田やその土を使用した土塚に、石器や土器片が見られることで、古く明治時代より有識者には知られていた。又、戦後市営住宅の建設や府営水道の



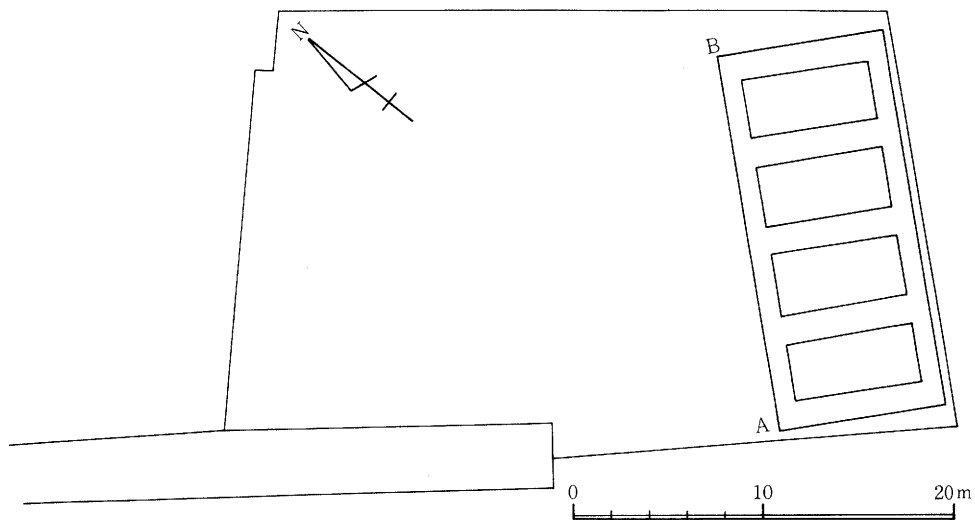
第2図 池上・曾根遺跡調査地点図 (1:5,000)

水道管理設工事、光明池水路改修などの工事により、広範囲にわたる弥生時代の集落跡であることが広く知られるようになった。^⑬しかしいずれも立会による緊急調査であって、本格的な発掘調査が実施されたのは、昭和44～46年にかけての第2阪和国道（現国道26号線）建設に先立っての調査からである。その結果はかねて考えられていた弥生集落の定説よりも、規模・内容ともに大きく上まわり、その認識を書き換える必要を生じせしめたものであった。それは弥生時代前期に於ける集落の生成から発展への過程、及び古墳時代への移行の様子を明らかにしただけでなく、生活や祭祀をうかがわせる資料をも提供した。その後の調査により、遺跡の範囲は和泉市のみでなく、泉大津市曾根町にまで延びていることが判明した。

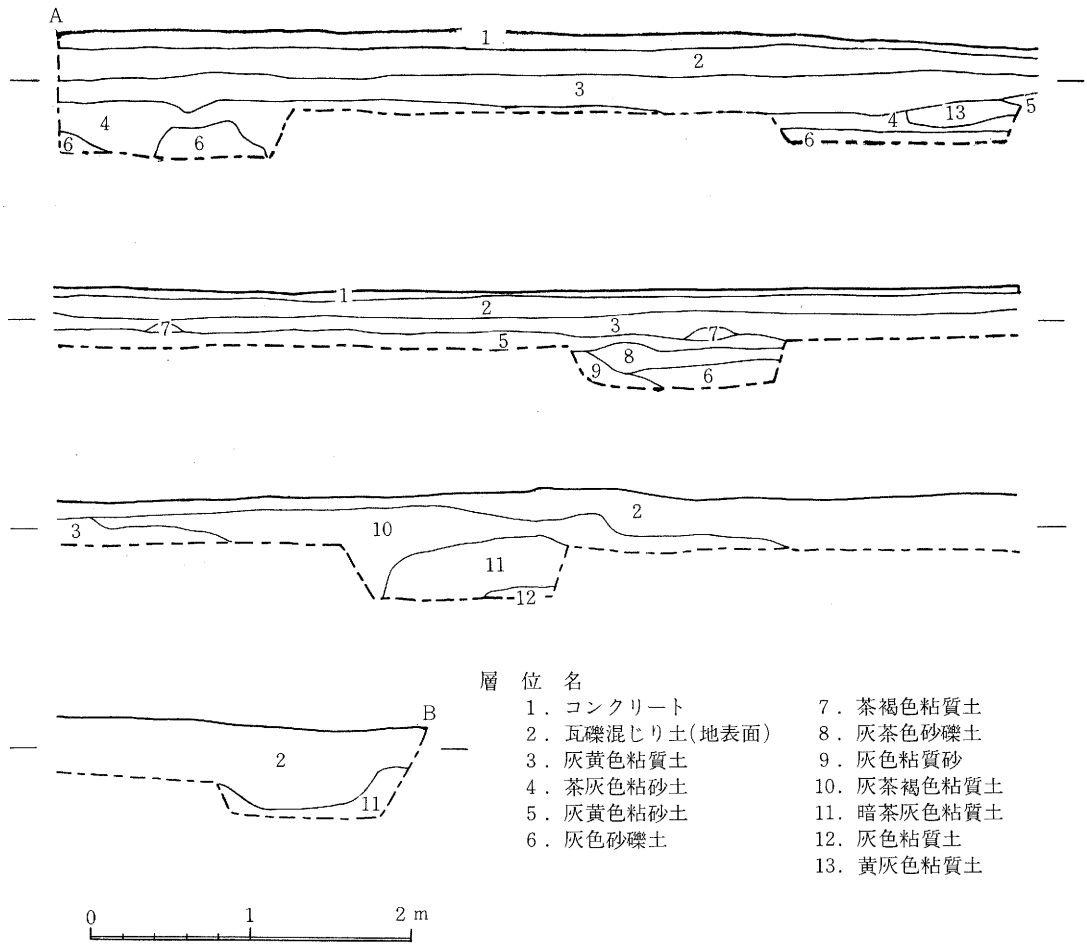
本遺跡は、その重要性から多数の人々の保存に対する熱意で、昭和51年4月26日、国の史跡に指定され、泉大津市・和泉市により永久保存のため徐々に公有地化が進められ、有効利用へと計画がなされている。又、その周辺部に於ても府教育委員会をはじめ、両市教育委員会に於て、発掘調査が実施されている。今年度からは、史跡指定地内の試掘も開始され、遺跡の様子がより明らかにされつつある。

II 調査結果

第 1 地 点(曾根町1丁目34 調査番号 I S - 3)



第 3 図 池上曾根遺跡 第 1 地点掘削位置図



第4図 池上曾根遺跡 第1地点 西壁断面図

自家用倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は793.66㎡である。

倉庫建設予定地は、敷地内の東南端である。基礎は梯子状で、深さは地表面から約0.4～0.6mと比較的浅い。土地所有者と協議の結果、基礎部分のみ掘削することとなり、図の様な調査区の設定となった。南北方向のトレンチ幅は約1.0m、東西方向のトレンチ幅は約1.5mである。まず、重機にてコンクリート及び地表面（瓦礫混じり土）を除去し、その後人力で下層を掘削し、断面・床面観察による調査を実施した。

コンクリート以下の層位は、瓦礫混じり土（地表面）9～46cm、灰黄色粘質土最大厚約24cmで、灰黄色粘質土は北側では灰茶褐色粘質土となるが、灰茶褐色粘質土もやがてなくなり、地表面（瓦礫混じり土）が幅広くみられる。以下は、暗茶灰色粘質土、灰色粘質土が堆積する。南側の灰黄色粘質土以下の層序は、茶灰色粘質土最大厚約36cm、灰黄色粘砂土最大厚約11cmで、以下は、灰

色砂礫土、灰茶色砂礫土、灰色粘質砂などの砂礫層の堆積がみられる。

調査区東隅では、砂礫層の堆積とともに湧水がみられ、敷地に沿って東西方向に流れる水路が、かつてはもう少し幅広く存在していたのではないかと思われる。当該地は史跡指定地の西隣に位置するため遺構の検出が予想されたが、今回は掘削深度が地表面からわずか60cmと浅いため、遺構の検出には至らなかった。遺物は地表面直下の灰黄色粘質土とその下層の茶色粘砂土、及び灰黄色粘砂土から近世の生活雑器が多数検出された。調査区とほぼ同じ規模の納屋が、今回の倉庫建設に伴い取り壊されていることから、これらの遺物はそこで使用されていたものであろう。写真撮影及び断面実測図を作成し、調査は終了とした。

遺物

(1) 土師器 (1~18)

図示できる土師器の皿は全部で18点であるが、これらの他にも多くの破片が出土している。

1~14及び16・17の法量は、口径7.0~8.0cm、器高1.4~2.0cmを測る。器高が低く扁平で、調整は口縁部にヨコナデ、体部と底部に指押えがみられるものがほとんどである。色調は乳白色か乳褐色を呈し、胎土は比較的密で、焼成はおおむね良好である。これらの土師器小皿は口縁部付近にススの付着がみられるものは1点もない。いわゆる灯明皿として使用されていなかったことがうかがえる。

15は口径10.5cmを測るやや大きめのものであるが、器高は1.5cm前後と扁平である。色調は乳白色を呈し、口縁部内外面はヨコナデによって調整される。18は口径10.5cm、器高2.5cm前後を測る。内外面に指押えがみられる。色調は乳褐色を呈する。15・18ともに胎土は密で、焼成は良好である。

(2) 瓦器 (19~29)

瓦器はその法量などから3つに大別できる。

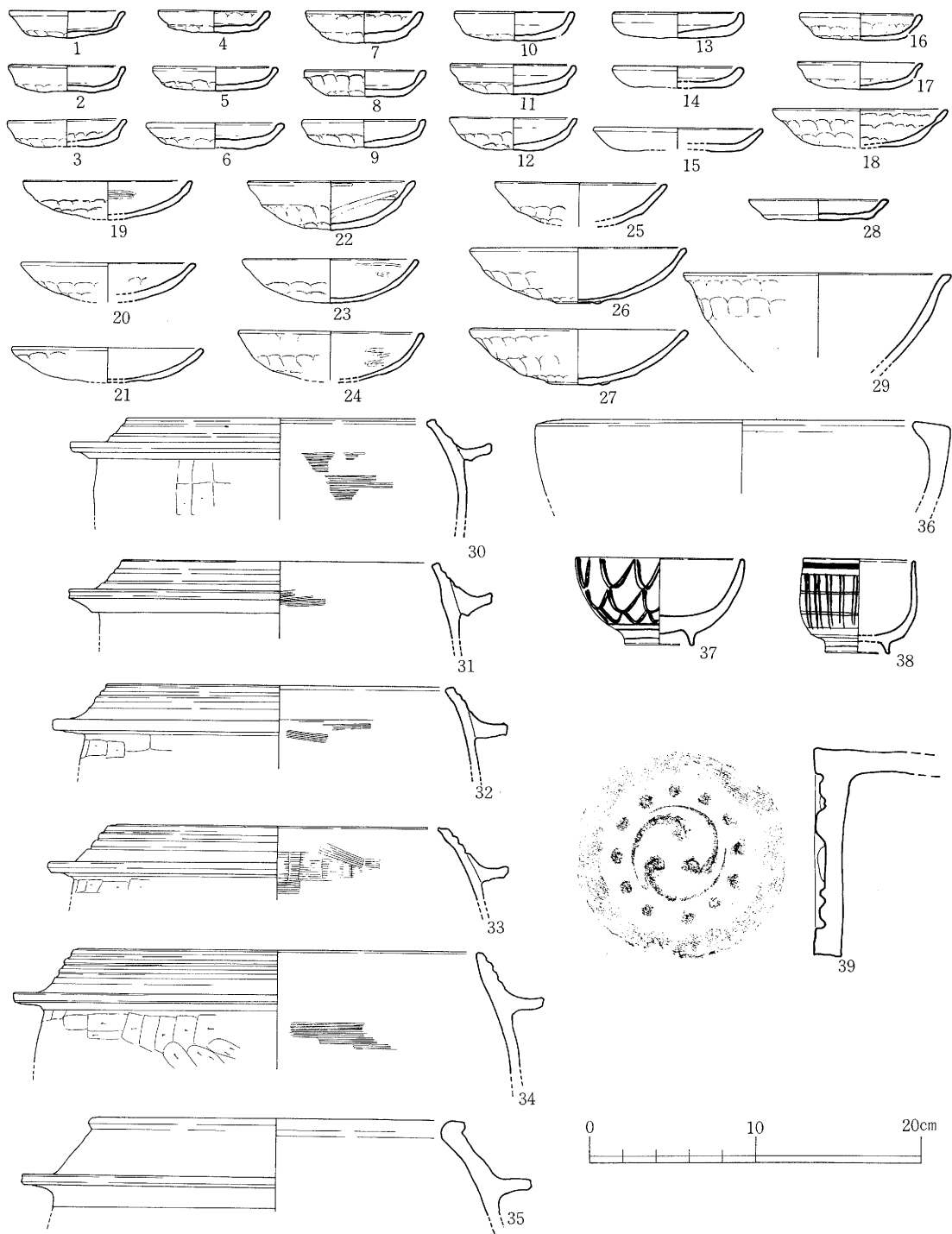
(1) 口径10.0~11.0cm、器高2.0~3.0cm前後のもの (19~25)

(2) 口径13cm前後、器高3.5cm前後のもの (26・27)

(3) その他

(1)のうち19~21は、器高2.0~2.5cmを測りやや扁平であるのに対し、22~25は器高3.0cm前後である。いずれも口縁部にヨコナデ、体部に指押えがみられる。色調は黒灰色を呈し、胎土は密で、焼成も良好である。19・21~24は内面にヘラ磨きを施す。

(2)は貼り付けの高台がみられるが痕跡程度に付されており粗雑なものである。底径は2.0~3.0cm前後を測る。口縁部にヨコナデ、体部外面に指押えがみられる。色調は口縁部のみわずかに黒



第5图 池上・曾根遺跡 第1地点出土遺物

灰色を呈する。胎土は比較的密であるが、2点とも磨減が激しい。

(3)は28が小皿で、29は鉢かと思われる。28は口径8.3cm、器高1.3cmを測る。口縁部はヨコナデ、底部は指押えがみられる。黒灰色を呈し、胎土は密で、焼成も良好である。29は口径16.0cmを測る。やや内弯する体部から、外方向に折り曲げた様な口縁部をもつ。端部は上方向に面をなす。体部外面上部に指押えがみられる。黒灰色を呈し、胎土は密であるが、磨減が激しい。

(3) 羽 釜 (30~35)

出土した羽釜は35を除きすべて瓦質のものである。口径は19cm前後のもの(30・31)と、21~24cmのもの(32~34)がみられる。30~34の形態は口縁部が内傾し、段が明瞭にみられる。内面はすべてハケメによる調整がみられる。35は土師質のもので、口径は22cm前後を測る。玉縁状の口縁部をもつ。

(4) 火 鉢 (36)

口径20.8cmを測る。やや丸みをおびた胴部をもち、口縁部は丸くおさまられる。内外面ともヨコナデ調整がみられる。胎土中には微砂粒、クサリ礫を多く含むが密で、焼成も良好である。

(5) 磁 器 (37・38)

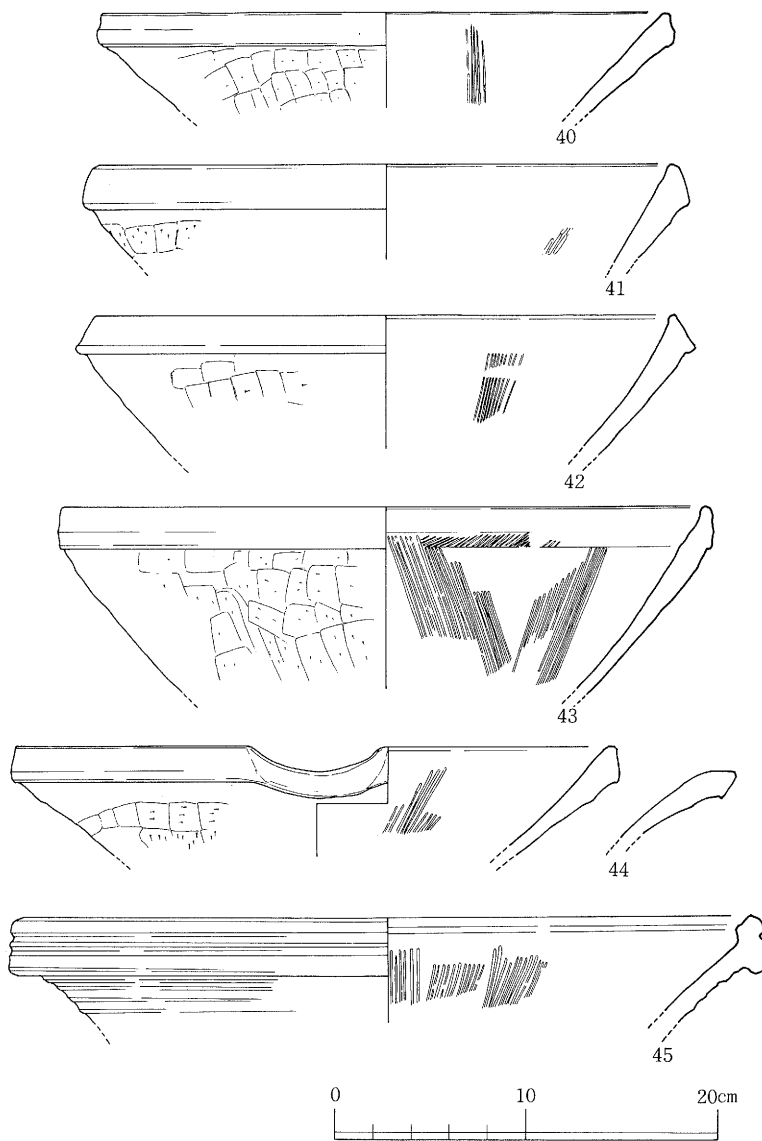
ともに染付碗である。37は口径10.0cm、器高5.3cm、底径4.0cmを測る。外面には二重網目文の文様がみられる。38は口径6.6cm、器高5.8cm、底径3.8cmを測る。外面には縦横に2本1組の格子状の文様がみられる。

(6) 軒丸瓦 (39)

瓦当直径12.5cmを測る右巻き三ツ巴文である。巴頭部と尾部が明瞭に分かれ、頭部、尾部の断面は扁平な台形を呈する。珠文数は12個で径は0.8cmを測る。瓦当裏面は丁寧なナデが施されている。色調は黒灰色を呈し、胎土は密、焼成も良好である。

(7) 播 鉢 (40~45)

40~44は瓦質の播鉢である。40は口径29.5cmを測る。内面はスリ目、外面は削りがみられる。胎土には小石・砂粒を多く含む粗い。41は口径30.0cmを測る。端部は面をなしやや丸みをもっている。内面はスリ目、外面は削りがみられる。胎土は砂粒を多く含むが密である。42は口径30.4cmを測る。体部はわずかに内弯し、端部は面をなし、口縁端部内面に稜をもつ。内面はハケメ、外面は削りがみられる。胎土には小石・砂粒を多く含む粗く、磨減が激しい。43は口径33.6cmを測る。体部はやや内弯し、口縁端部は丸みをもつ。口縁内面に明確な稜をもつ。内面のスリ目は狭い間隔で施され、外面に削りが明確にみられる。胎土には小石・砂粒を多く含む。44は口径31.2cmを測る片口の播鉢である。外上方に開がる体部を持ち、端部はほぼ垂直に面をなす。内面にスリ目、外面は削りが明確にみられる。胎土には砂粒を多く含むが密で、焼成も良好である。



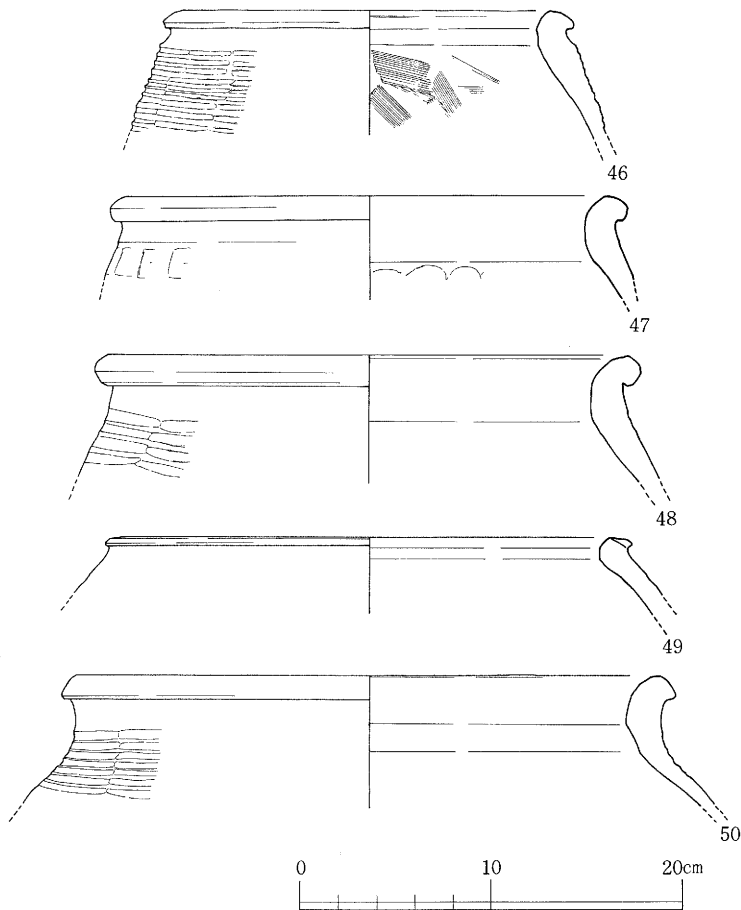
第6図 池上・曾根遺跡第1地点出土遺物

45は備前焼の播鉢である。口径は38.0cmを測る。内外面とも暗赤茶色を呈する。口縁部下方に拡張が著しく、内面のスリ目は狭い間隔で浅く施されている。

(8) 甕 (46~50)

口縁部が外側に折れ曲がり丸くおさめる玉縁状を呈する甕である。46・48~50は土師質で、47のみ瓦質である。

46は口径19.0cmを測る。玉縁状の外側に折れ曲がった端部は比較的薄く、わずかに面をなす。



第7図 池上・曾根遺跡第1地点出土遺物

体部外面にはほぼ平行のタタキが施されている。内面にはハケメがみられる。胎土は砂粒を多く含むが密で、焼成も良好である。48は口径37.2cmを測る。外面には粗いタタキが施されるが、内面は磨滅が激しく調整は不明である。胎土は砂粒を多く含むが密である。49は口径26.0cmを測る。折れ曲がった端部の断面は扁平な台形を呈する。口縁部はヨコナデ調整がみられ、丁寧に仕上げられている。胎土は緻密で、焼成も良好である。50は口径30.6cmを測る。口縁部はほぼ垂直に短く立ち上がり、端部は面をなす。外面は平行のタタキが施され、内面は明確な稜がみられるが、磨滅が激しく調整は不明である。胎土は小石・砂粒を多く含む粗く、全体に磨滅が激しい。

47は口径25.0cmを測る。外面はヨコ方向の削りがみられ、内面は指押えが明確にみられる。胎土は砂粒を多く含むが密である。

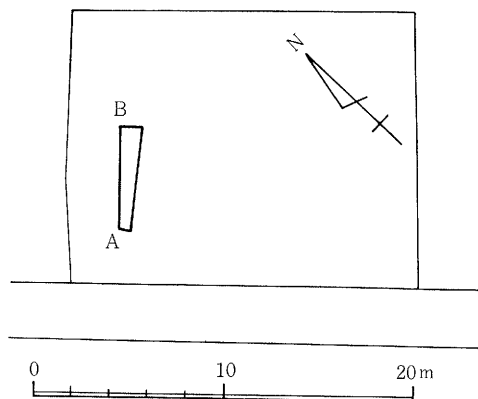
第 2 地点(曾根町1丁目144-2 調査番号9012)

共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は262.78㎡である。

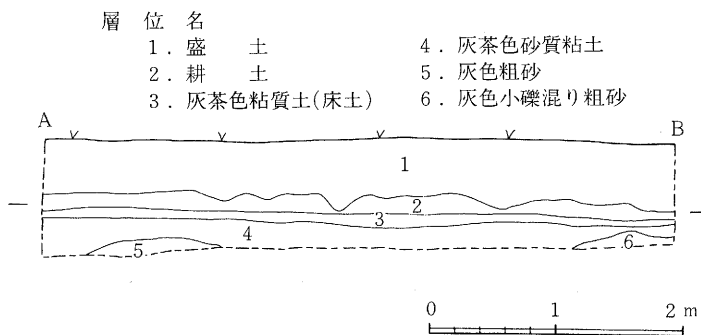
敷地内の東端に幅1.2m、深さ0.8m、長さ5.0mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土42~56cm、耕土4~16cm、灰茶色粘質土(床土)4~12cm、灰茶色砂質粘土20cm以上と続く。灰茶色砂質粘土は南側では灰色粗砂、北側では灰色小礫まじり粗砂がみられ、部分的に砂礫層となっている。

遺構・遺物は確認できず、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第 8 図 池上・曾根遺跡
第 2 地点掘削位置図



第 9 図 池上・曾根遺跡 第 2 地点 北壁断面図

第 3 地点(曾根町1丁目59 調査番号9014)

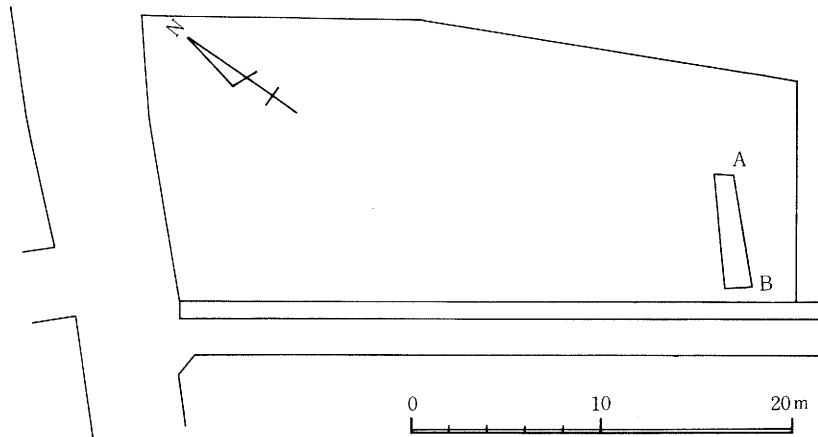
住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は468.08㎡である。

敷地内の南隅に幅1.6m、深さ0.8m、長さ5.5mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

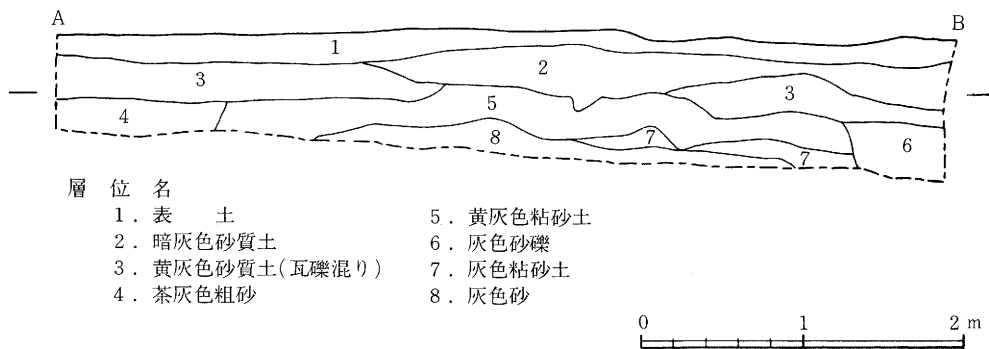
層序は上部から表土8~20cm、暗灰色粘質土最大厚約40cm、以下粘土層と砂礫層が入り混って堆積しており、河川の様相を呈している。調査区の南側には水路があり、かつては調査区の一部

もこの水路内にかかっていたとも考えられる。

遺構・遺物は確認できず、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第10図 池上・曾根遺跡 第3地点掘削位置図



第11図 池上・曾根遺跡 第3地点 南壁断面図

第4地点(曾根町1丁目445、446、402-9 調査番号9025)

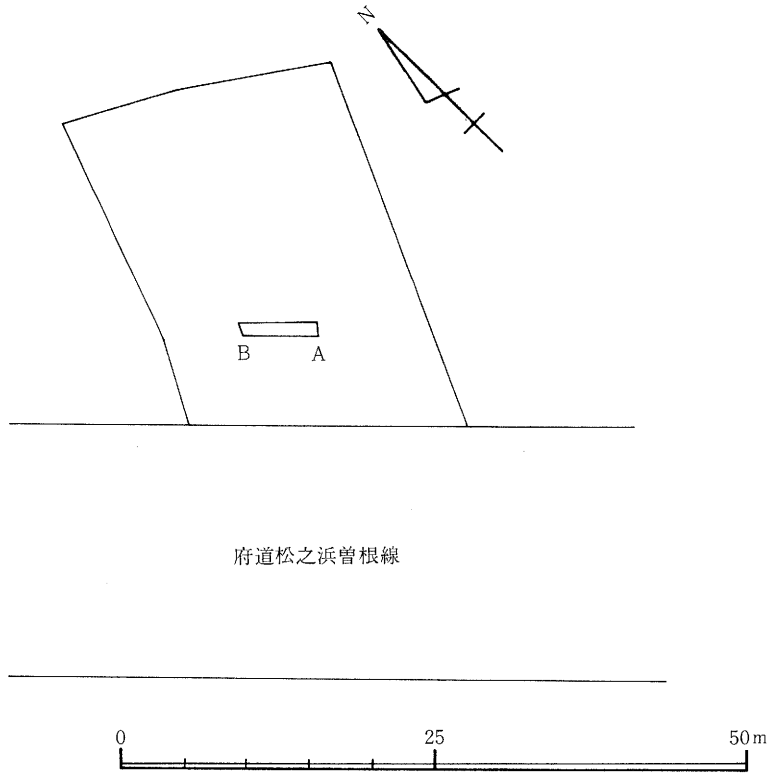
倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は594.26㎡である。

敷地内の東南部に幅1.0m、深さ0.58m、長さ6.3mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

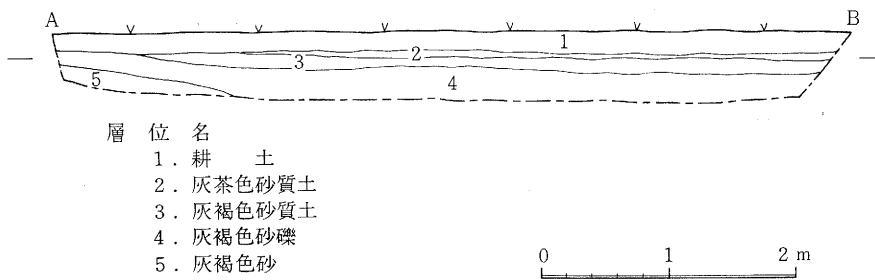
層序は上部から耕土14~18cm、灰茶色砂質土6cm、灰褐色砂質土8~12cm、灰褐色砂礫26cm以上で、東側では灰褐色砂が見られ、図のように堆積していた。深さ40cm位から湧水がみられ、当

該地は旧地形の谷状部分にあたるものと思われる。

遺構・遺物は確認できず、倉庫の基礎は、約60cmの盛土の上に施工されるので、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第12図 池上・曾根遺跡 第4地点掘削位置図

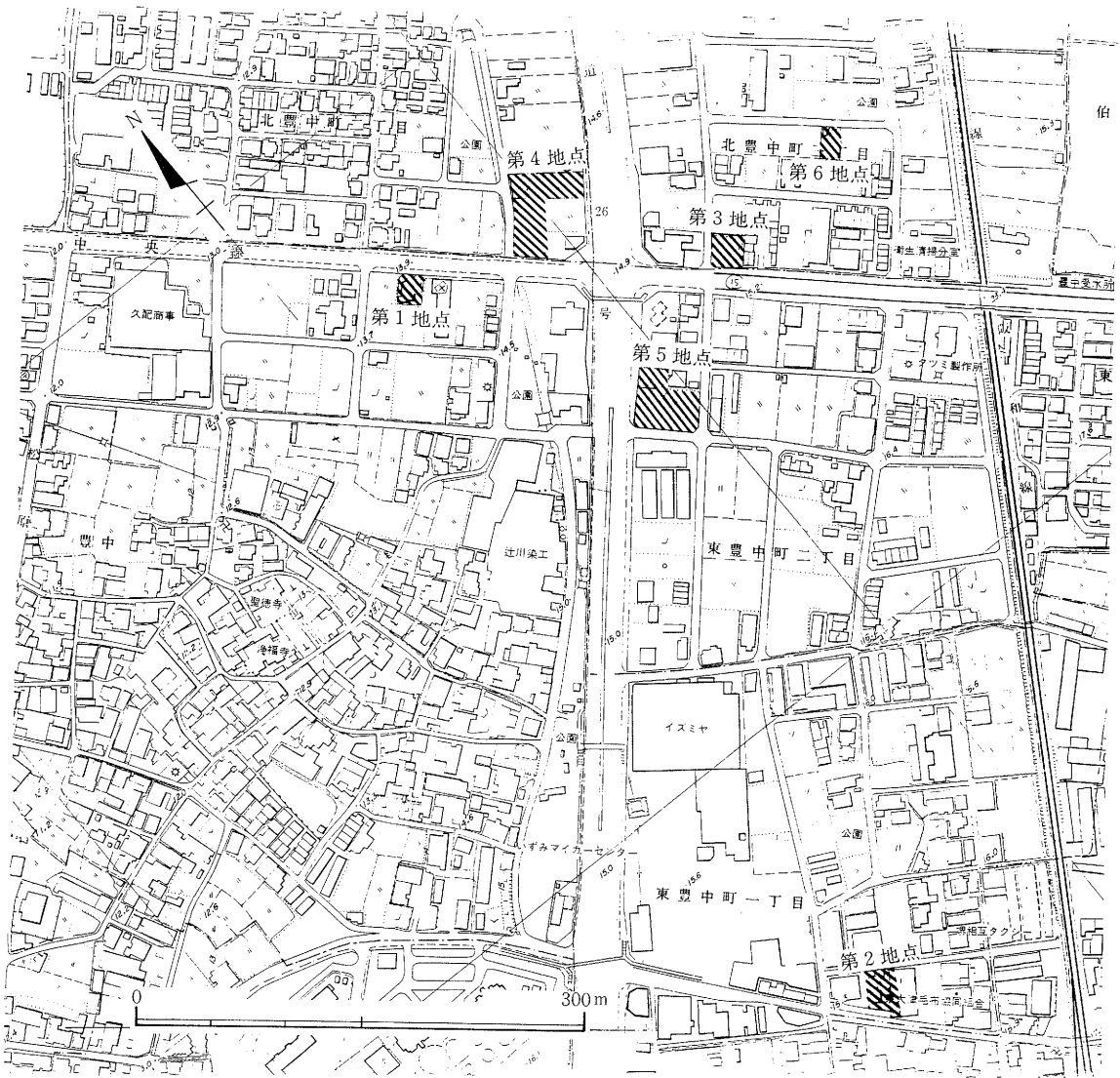


第13図 池上・曾根遺跡 第4地点 南壁断面図

第2節 豊中遺跡

I 遺跡の概要

泉大津市豊中・北豊中町及び東豊中町一帯に所在する豊中遺跡は、昭和30年代中頃に発見された遺跡である¹⁹。本遺跡は国道26号線及び土地区画整理事業の完成に伴い、土地の開発行為が増加し、現在までに市内で最も数多くの発掘調査が実施されている。その調査結果の概略は以下のとおりである。



第14図 豊中遺跡調査地点図(1:5,000)

まず縄文時代後期の土器片が、埋積谷に位置する旧河道砂礫堆層内より発見されており、^②上流部より流動されてきたものと思われる。この層内上部には、土師器や須恵器が含まれており、平安時代頃まで河川は存続していたものと考えられる。この部分は土地区画整理事業が実施されるまで溜池であったが、それが築造されたのは、鎌倉時代かもしくはそれに近い時期と思われる。このほか古墳時代の集落跡が確認されている。集落は竪穴住居と掘立柱建物とで構成されており、数棟単位で1グループをなしている。このようなグループは数ヶ所にあり、庄内式土器～布留式土器にかけての時期に属するものである。又、平安時代中頃の井戸や、^②鎌倉時代から室町時代に属する井戸等も検出され、大複合遺跡としてとらえられている。

II 調査結果

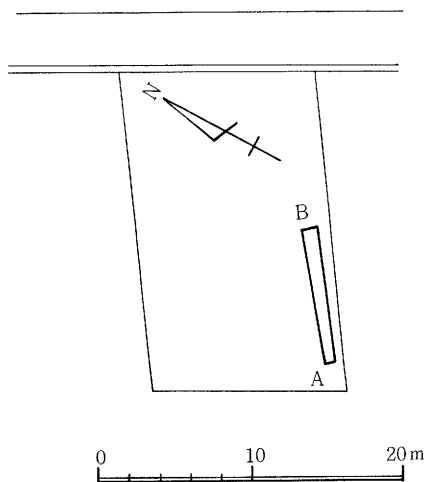
第 1 地 点 (豊中955-2 調査番号9007)

事務所付住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は266.77㎡である。

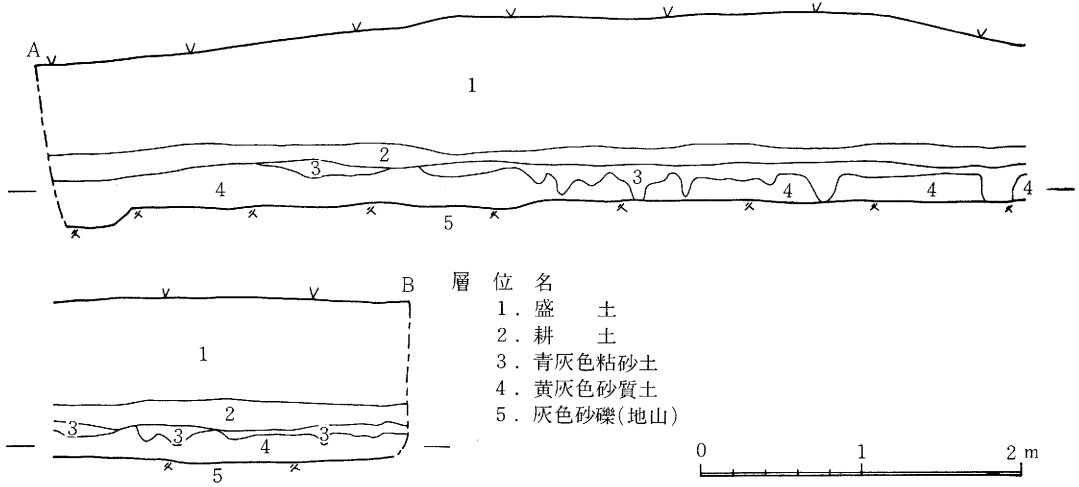
敷地内の南東端に幅0.9m、深さ1.0～1.2m、長さ8.2mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、断面観察を中心とした調査を実施した。

層序は上部から盛土64～80cm、耕土4～20cm、青灰色粘砂土が最大厚約22cm、黄灰色砂質土が最大厚約28cmと続き、地山である灰色砂礫に至る。黄灰色砂質土より瓦器、土師器、瓦片が少量出土したが、いずれも小破片であるため図示し得ない。

遺構は確認できず、付近の既往調査結果とも考えあわせ、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

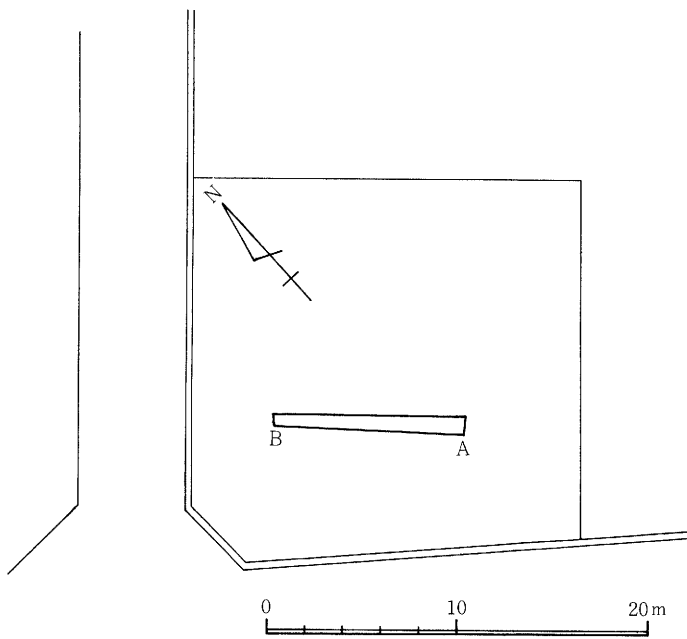


第15図 豊中遺跡
第1地点掘削位置図

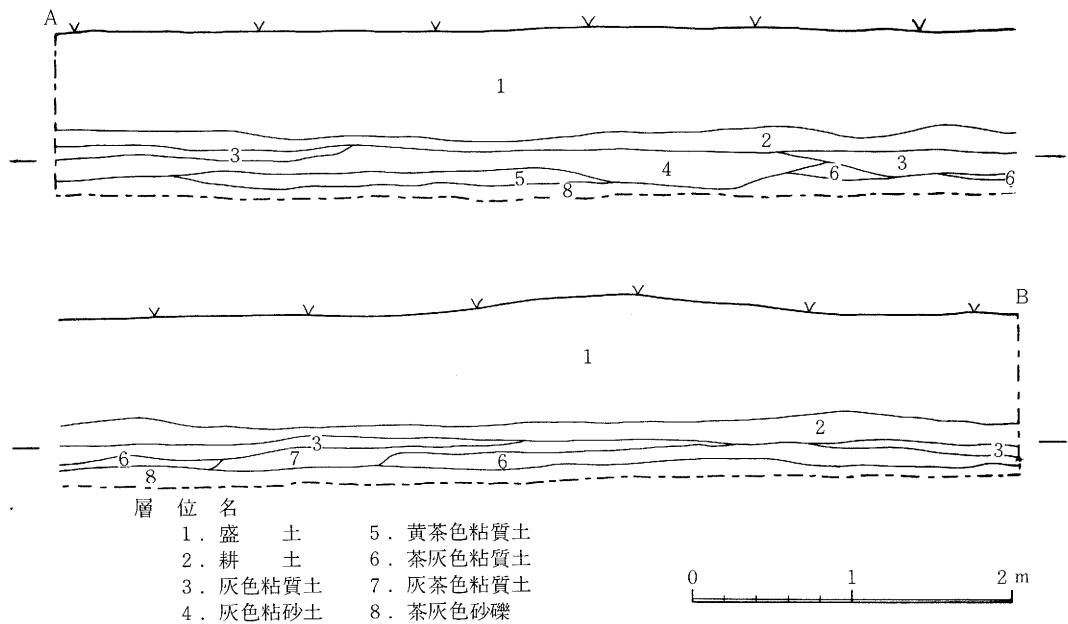


第16图 豊中遺跡 第1地点 北壁断面图

第 2 地点 (東豊中町1丁目93-3、93-5 調査番号9009)



第17图 豊中遺跡 第2地点掘削位置图



第18図 豊中遺跡 第2地点 南壁断面図

事務所建設工事に先立つ調査である。敷地面積は388.040㎡である。

敷地内の南東部に幅1.2m、深さ1.1m、長さ10mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土60～80cm、耕土6～20cm、灰色粘質土最大厚約14cmとなっている。灰色粘質土の下層は、東端から中央付近にかけて灰色粘砂土最大厚約27cmがみられ中央付近から西端にかけては、茶灰色粘質土最大厚約11cmと灰茶色粘質土10cmがみられる。灰色粘砂土の下層では、黄茶色粘質土最大厚約10cmがみられ、茶灰色砂礫約3cm以上と続く。

遺物・遺構は確認できず、湧水も激しいため、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

第3地点（北豊中町3丁目975-1 調査番号9015）

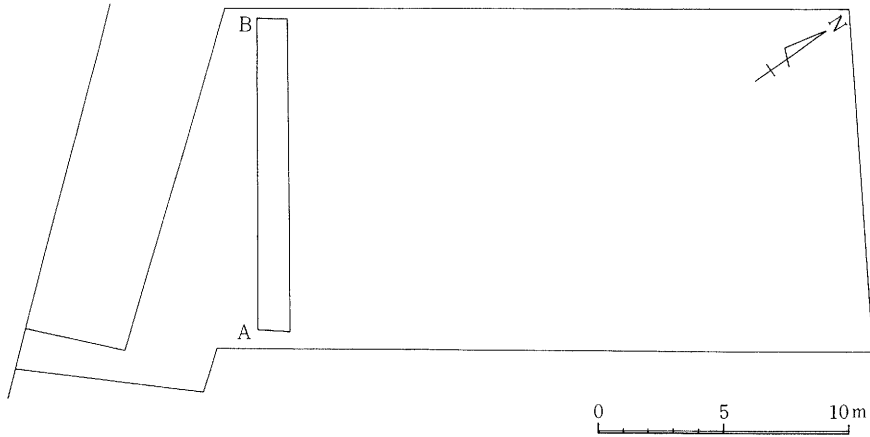
店舗建設工事に先立つ調査である。敷地面積は395.82㎡である。

敷地内の北隅に幅0.9m、深さ0.6～0.7m、長さ9.4mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

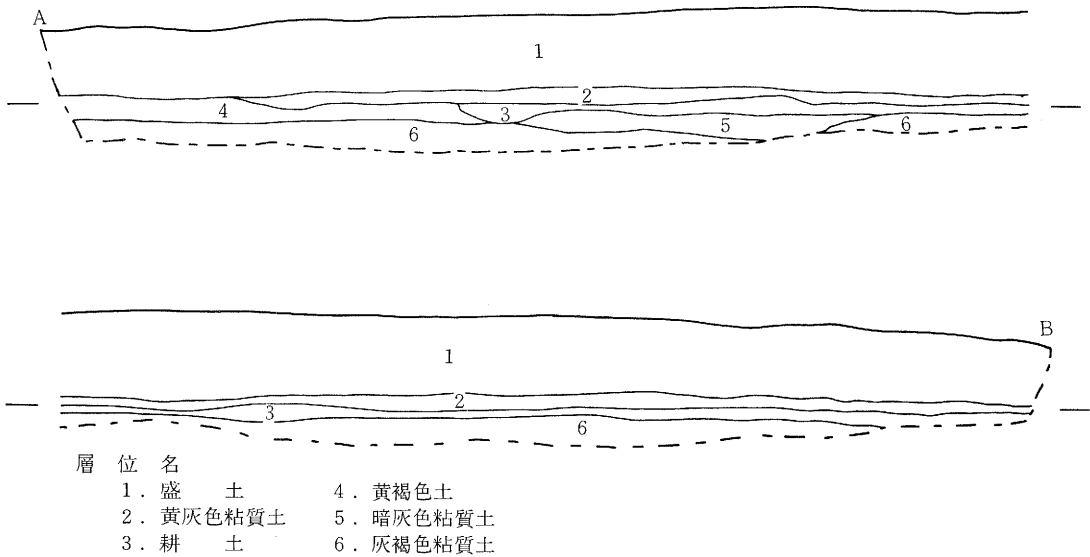
層序は上部から盛土約35cm、黄灰色粘質土最大厚約8cm、東端で黄褐色土最大厚約12cmがみられるが、耕土最大厚約10cmに変わる。耕土の下層は部分的に暗灰色粘質土最大厚約10cmになって

いるが、灰褐色粘砂土約14cmに続く。

黄褐色土から瓦器、須恵器、土師器が、灰褐色粘砂土から須恵器が出土した。今回の調査区は国道26号線より東へ約50mのところの位置する。既往調査より遺構の存在が予想されたが、今回の調査では確認できなかった。遺物は二次堆積によるものと思われる。壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第19図 豊中遺跡 第3地点掘削位置図



第20図 豊中遺跡 第3地点 南壁断面図

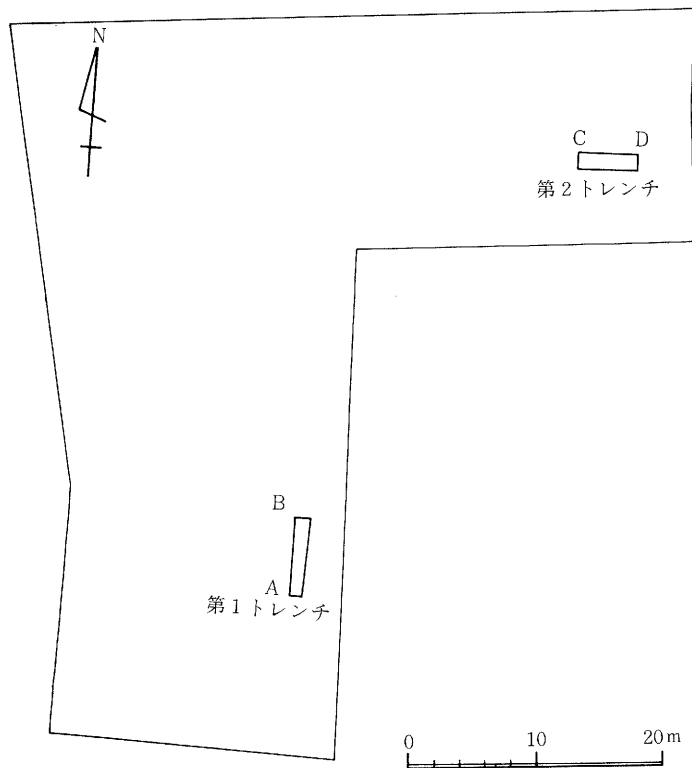
第 4 地 点 (北豊中町 2 丁目 986-1、986-6 調査番号 9019)

店舗建設工事に先立つ調査である。敷地面積は1859.40㎡である。

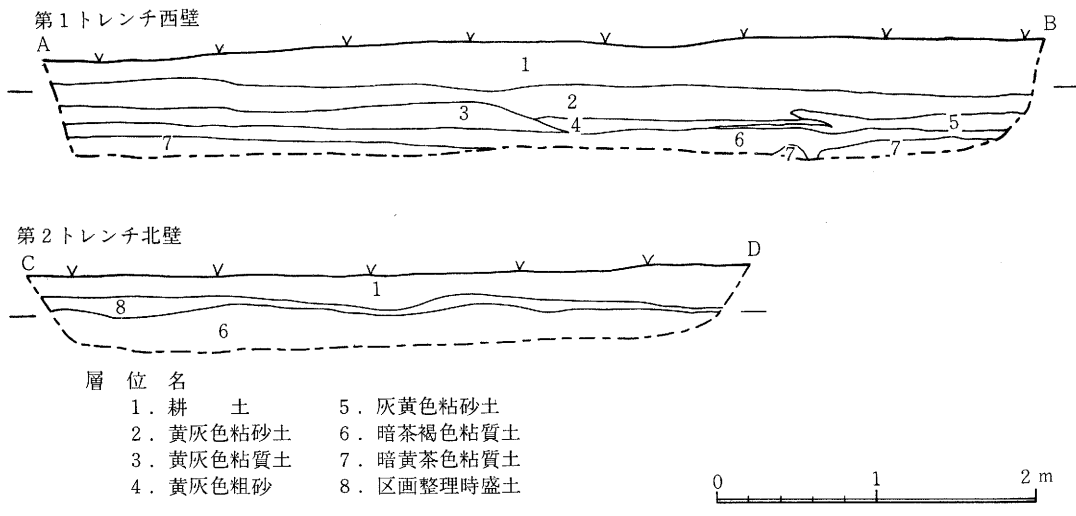
敷地内の南東隅及び東端に幅1.2m、深さ0.7m、長さ6.3m〔第1トレンチ〕、幅1.1m、深さ0.4m、長さ4.6m〔第2トレンチ〕の規模の調査坑を設定した。二箇所とも重機による掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

第1トレンチの層序は上部から耕土12~35cm、黄灰色粘砂土8~20cm、黄灰色粘質土最大厚約16cmで、黄灰色粘質土は中央付近から北方向では、黄灰色粗砂最大厚約10cm、灰黄色粘砂土最大厚約11cmに変わる。これらの下層には共通して暗茶褐色粘質土7~15cmがみられ、暗黄茶色粘質土約10cm以上に至る。第2トレンチの層序は上部から耕土14~27cmの下層に区画整理時の盛土が厚さ2~13cmでみられ、その下は暗黄茶色粘質土28cm以上になっている。

当調査区内北側については建物の基礎が入らないため、南側及び東側部分のみトレンチ掘りを行なった。第2トレンチより、瓦片、土師器片が出土したが、小破片であるため図示し得ない。遺構も確認されなかつたので、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



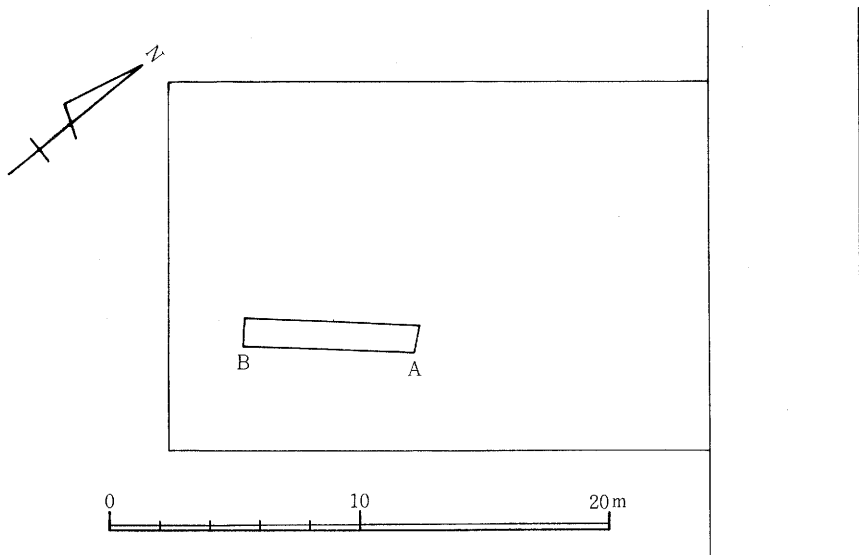
第21図 豊中遺跡 第4地点掘削位置図



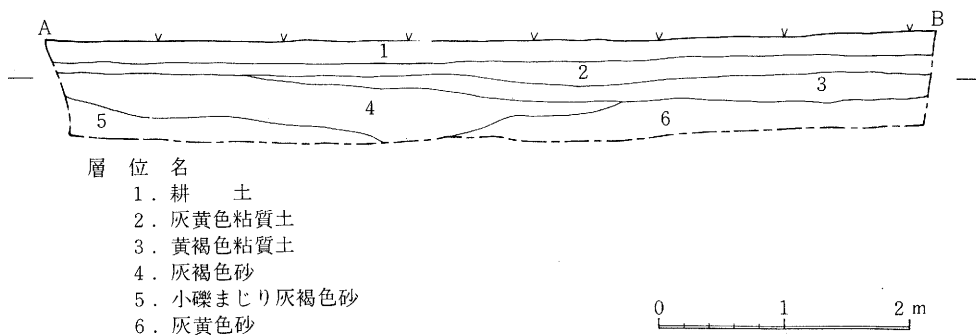
第22図 豊中遺跡 第4地点 断面図

第5地点 (北豊中町3丁目976-9 調査番号9024)

共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は300.80m²である。



第23図 豊中遺跡 第5地点掘削位置図



第24図 豊中遺跡 第5地点 南壁断面図

敷地内の南東隅に幅1.2m、深さ0.8m、長さ7.1mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から耕土約20cm、灰黄色粘質土8～18cmで黄褐色粘質土が東方向へ行くに従い徐々に厚くなる。最大厚は約20cmである。西側では灰黄色粘質土の下層に灰褐色砂がみられ、黄褐色粘質土の下へ入り込みなくなる。その下に西側で小礫まじり灰褐色砂、東側で灰黄色砂がみられる。

遺構・遺物とも確認できなかったので、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

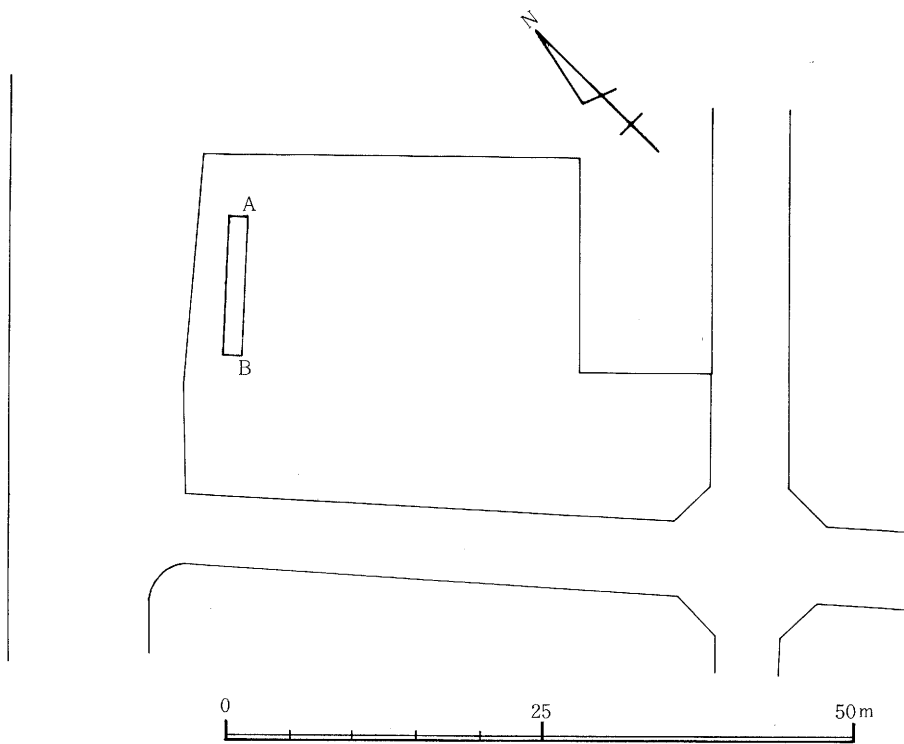
第 6 地 点 (東豊中町2丁目960-1の一部 調査番号9101)

店舗建設工事に先立つ調査である。敷地面積は963.50㎡である。

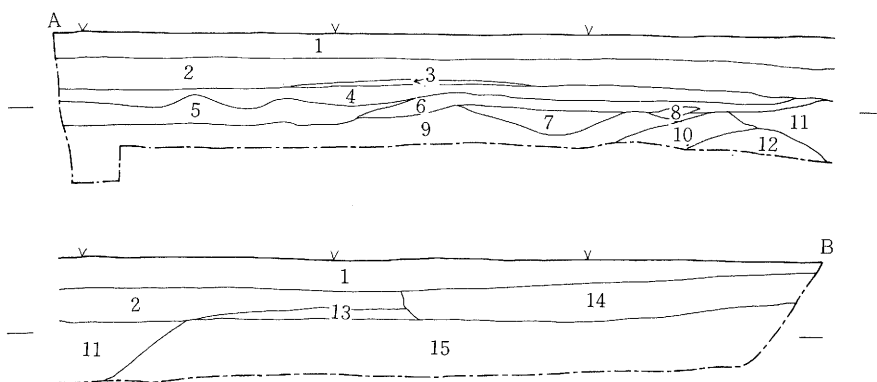
敷地内の北西端に幅1.1m、深さ0.9m、長さ12.1mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から耕土約20cm、茶灰色砂質土20～25cmとなり、調査坑の中央部より北側では、砂質土及び砂が複雑に堆積し、谷もしくは河川の埋没状況を呈している。灰色砂から土師器片、須恵器片が出土したが、磨滅が激しく図示し得ない。

付近の調査結果とも考え合わせると、当該地は谷もしくは河川の左部分にあたる場所と思われる。



第25图 豊中遺跡 第6地点掘削位置図



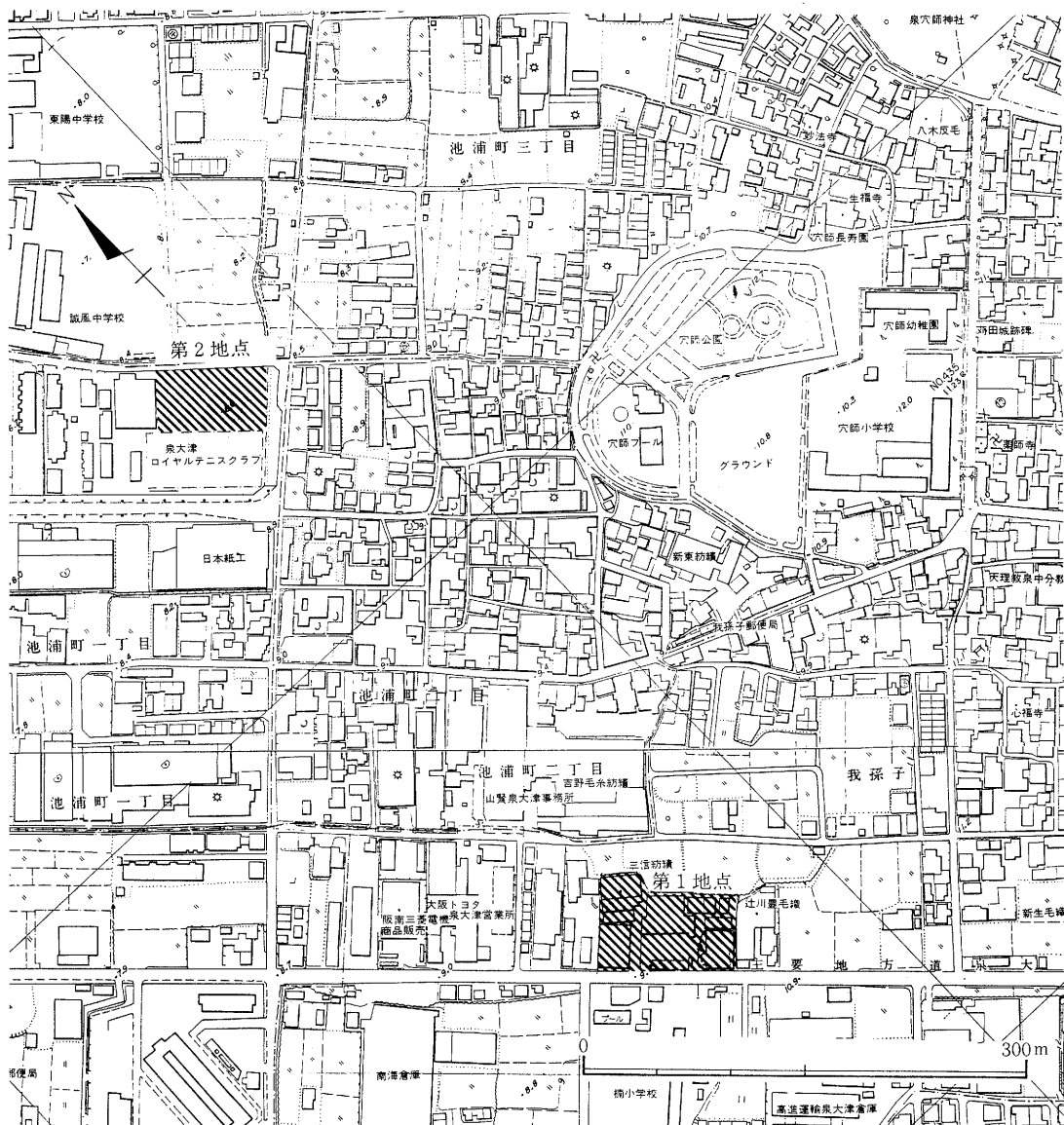
- | | | |
|-----|-----------|-------------|
| 層位名 | 1. 耕土 | 8. 灰色粗砂 |
| | 2. 茶灰色砂質土 | 9. 灰色砂 |
| | 3. 旧耕土 | 10. 暗黄灰色粘質土 |
| | 4. 暗茶色砂質土 | 11. 暗灰色粘質土 |
| | 5. 暗灰色砂質土 | 12. 黄色粘質土 |
| | 6. 黄色砂質土 | 13. 黄灰色粘質土 |
| | 7. 茶黄色砂質土 | 14. 区画整理時攪乱 |
| | | 15. 灰黄色粘質土 |

第26图 豊中遺跡 第6地点 東壁断面図

第3節 虫取遺跡

I 遺跡の概要

泉大津市虫取の市立南公民館を中心に半径約800mの範囲で、土師器片や須恵器片が散布しており、虫取遺跡として知られていた。この範囲内で昭和53年に民間宅地開発が計画され、それに



第27図 虫取遺跡調査地点図(1:5,000)

先立って発掘調査が、その費用を原因者負担で府教育委員会によって実施された。初めての本格的な調査によるメスが入られたのである。その結果、縄文時代晩期の土器片をはじめ弥生土器畿内第Ⅰ様式新段階の土器を包含する土坑、6世紀後半及び10世紀後半の掘立柱建物跡等が発見され、弥生時代前期、古墳時代前期、平安時代中頃の集落が存在していたことを明らかにさせた。その後、昭和54年にこの遺跡内に所在する諸瀬池が、小学校（現楠小学校）建設のため埋め立てられることになった。池内の堤防沿いに須恵器片が多数散布していたので、市教育委員会で池内の発掘調査を実施したのであるが、遺構は水の侵食や池底の改修等により削平されたようで、残念ながら発見されなかった。昭和58年には、学校用地となった旧諸瀬池の堤防をコンクリート擁壁にし、その一部を壊して市道が設けられることとなったので、それらの工事に先立って、市教育委員会で発掘調査を実施した結果、人工と思われる溝が検出された。その溝内から縄文土器である滋賀里式土器や長原式土器と共伴して、^②弥生土器畿内第Ⅰ様式新段階の土器が出土し、縄文時代と弥生時代の接点を明らかにする好資料が得られた。

II 調査結果

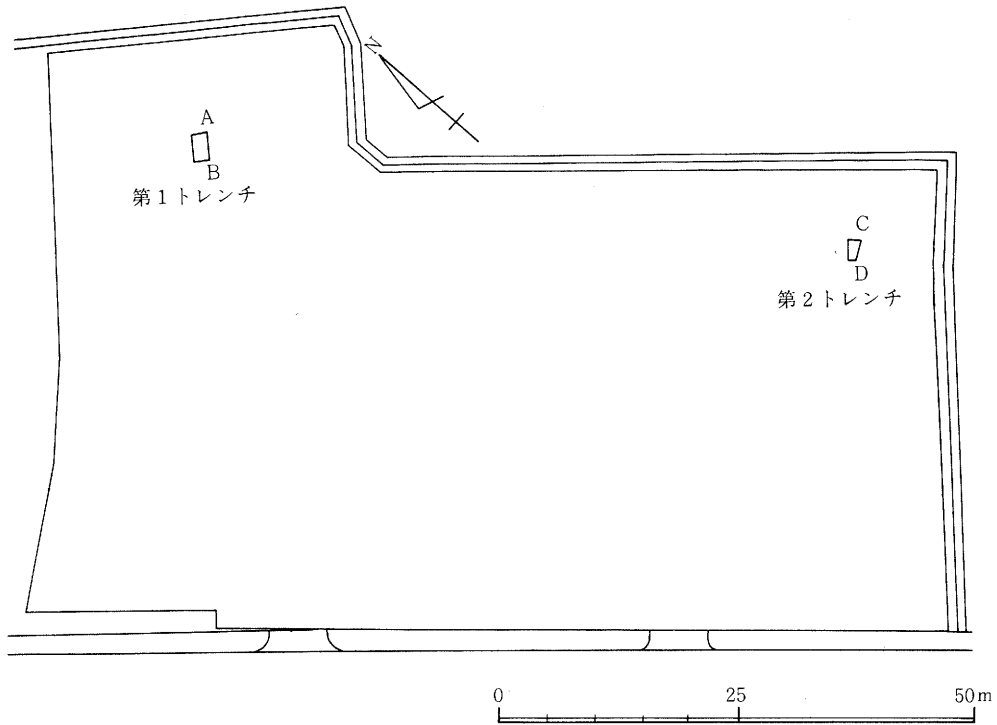
第 1 地 点（我孫子239-2、240、241-2、242-2、243-1、244 調査番号9006）

配送センター建設工事に先立つ調査である。敷地面積は4925.53㎡である。

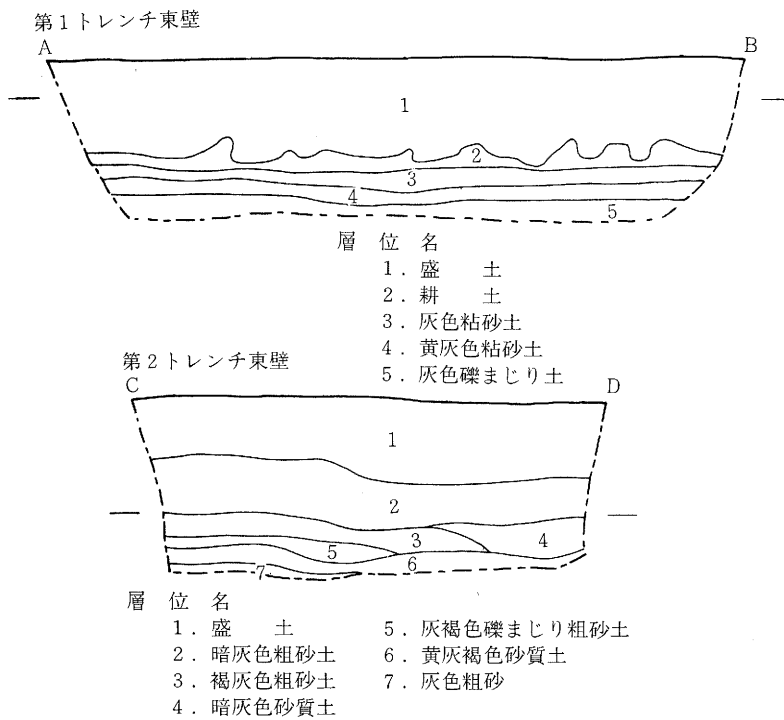
敷地内の北西部及び北東部に、幅0.9m、深さ0.8m、長さ3.6m〔第1トレンチ〕、幅0.9m、深さ0.9m、長さ2.4m〔第2トレンチ〕の規模の調査坑を設定した。二箇所とも重機による掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

第1トレンチの層序は上部から盛土約50cm、耕土3～15cm、灰色粘砂土5～13cm、黄灰色粘砂土6～9cm、灰色礫まじり土4cm以上となる。第2トレンチの層序は上部から盛土32～44cm、暗灰色粗砂土20～30cm、褐灰色粗砂土最大厚約13cmで、この層は南側では暗灰色砂質土最大厚約19cmの下層に入り込む。その下は、灰褐色礫まじり粗砂土最大厚約10cmで、この層は、南側ではみられない。以下、黄灰褐色砂質土5～14cm、灰色粗砂4cm以上と続く。遺物は第1トレンチの耕土及び灰色粘砂土から、土師器、瓦器片がわずかに検出されたが図示し得ない。第2トレンチからは、遺物は検出されなかった。

遺物はわずかに検出されたが、二次堆積によるものと思われる。遺構も確認できず、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

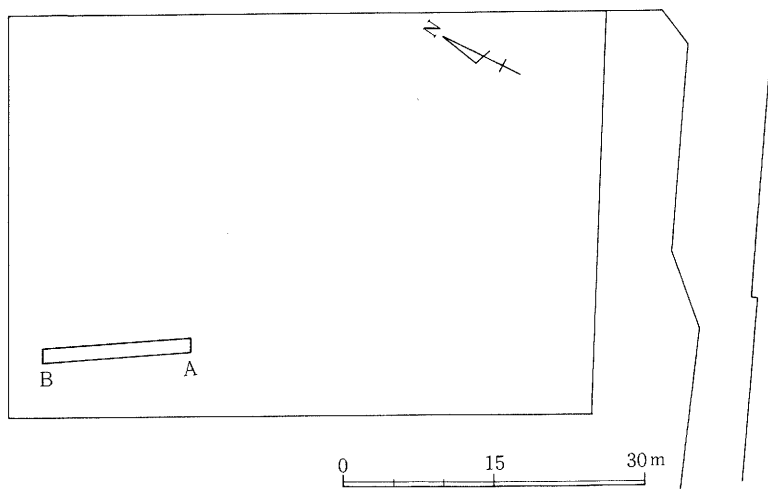


第28図 虫取遺跡 第1地点掘削位置図

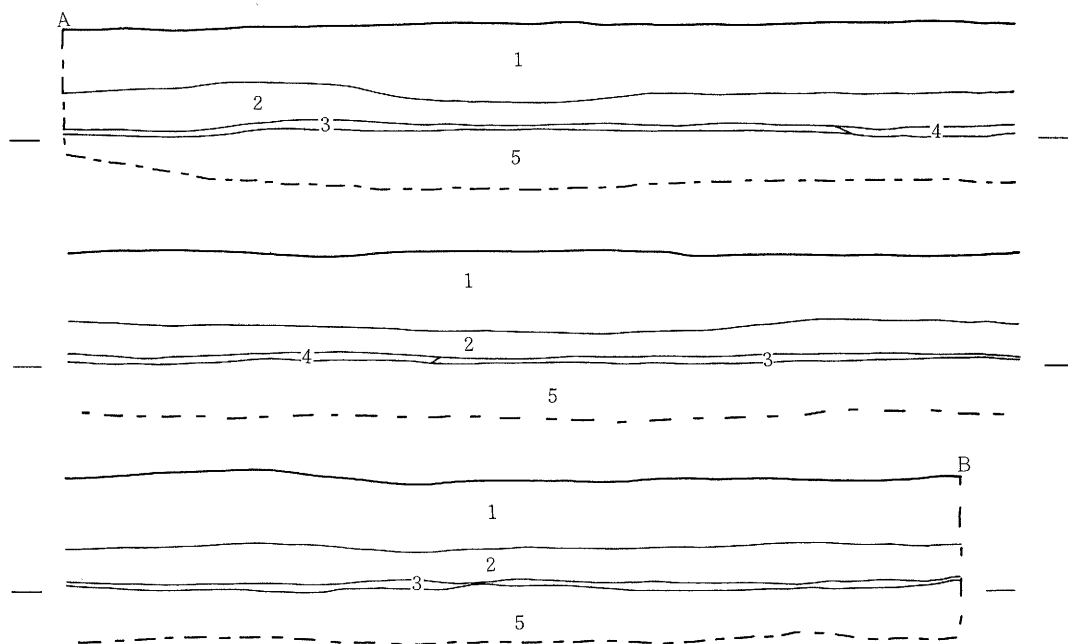


第29図 虫取遺跡 第1地点 断面図

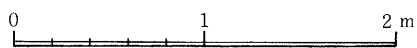
第 2 地 点 (池浦町1丁目95、95-1、96-1 調査番号9017)



第30図 虫取遺跡 第2地点掘削位置図



- 層 位 名
- 1. 盛 土
 - 2. 耕 土
 - 3. 灰黄色砂質土
 - 4. 青灰色砂質土
 - 5. 灰褐色粘質土



第31図 虫取遺跡 第2地点 西壁断面図

貸倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は2348.52㎡である。

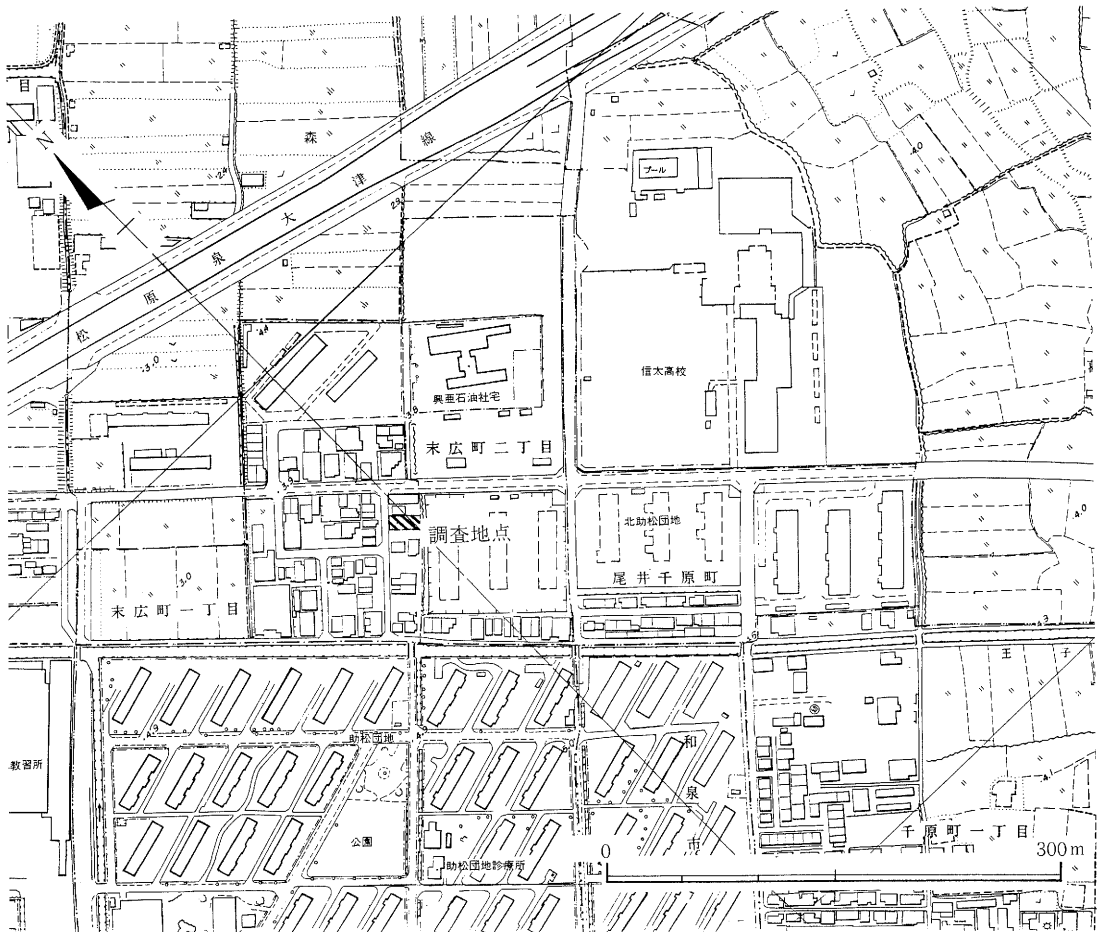
敷地内の北西隅に幅1.3m、深さ0.8m、長さ14.7mの調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土36～40cm、耕土10～20cm、灰黄色砂質土2～4cmである。灰黄色砂質土は西壁南端から5m付近で消失し、青灰色砂質土が2～4cmの厚さで見られる。しかし、8m付近で再び灰黄色砂質土が現われ、灰褐色粘質土10cm以上に至る。

遺構、遺物は検出されなかったため、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

第4節 大園遺跡

I 遺跡の概要



第32図 大園遺跡調査地点図(1:5,000)

大園遺跡は高石市西取石・綾園を中心に和泉市葛ノ葉、泉大津市綾井にまたがる大集落遺跡である。この遺跡も豊中遺跡・板原遺跡と同様、第2阪和国道（現国道26号線）建設に先立つ調査で高石市域に於て発見されたものであり、その成果は以下のとおりである。

遺構として円墳状の高まりを見せる裾部から、円筒埴輪・朝顔型埴輪や人物埴輪等が発見され、²³その後の調査で削平された帆立貝式古墳であることが判明し、「大園古墳」と名付けられた。又、²⁴埴仏や蓮華文軒丸瓦が出土し、白鳳寺院の存在も予想させる。更に、黄灰色土の所謂「地山」から旧石器のナイフ型石器も発見されており、本遺跡が幅の広い時代にわたっていることを物語っている。その後の府教育委員会、大園遺跡調査会、高石市教育委員会等の調査により、遺跡の範囲は更に広がり、和泉市、泉大津市まで延び、遺構が存在する段丘上及び段丘斜面上には、5世紀後半及び6世紀後半の掘立柱建物が120棟以上群をなしており、その屋や倉の構成から古墳時代集落の構成・構造を解明させる数少ない遺跡の一つとなっている。以上の外にも奈良・平安・室町の各時代の掘立柱建物も検出されており、大複合遺跡として存在しているが、その成果から得られる資料は膨大なもので、改めて驚かされるものがある。

II 調査結果

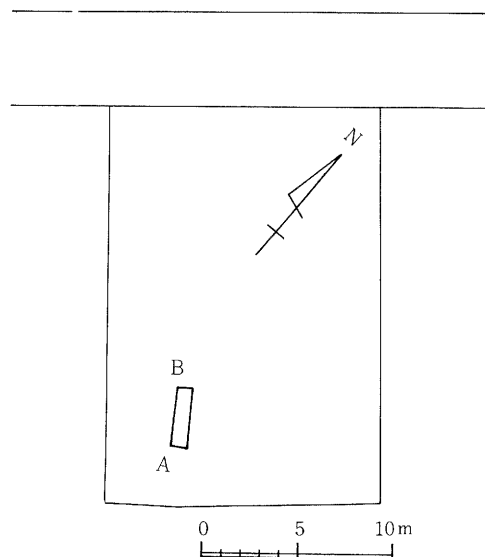
調査地点（末広町1丁目332-14、332-24 調査番号9016）

共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は293.41㎡である。

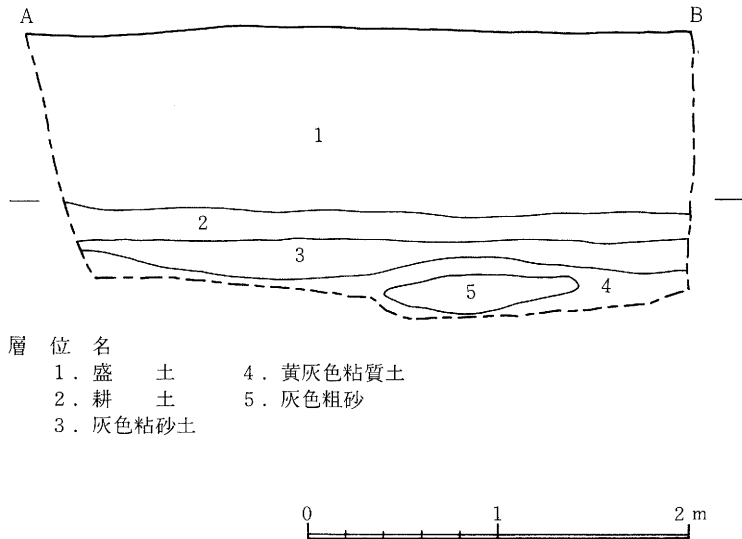
敷地内の北端に幅0.8m、深さ1.3m、長さ3.5mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土約90cm、耕土約12cm、灰色粘砂土5～20cm、黄灰色粘質土3cm以上となっている。黄灰色粘質土は部分的に灰色粗砂2～20cmがみられる。

遺構・遺物は認められず、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第33図 大園遺跡 調査地点掘削位置図



第34図 大園遺跡 調査地点 南壁断面図

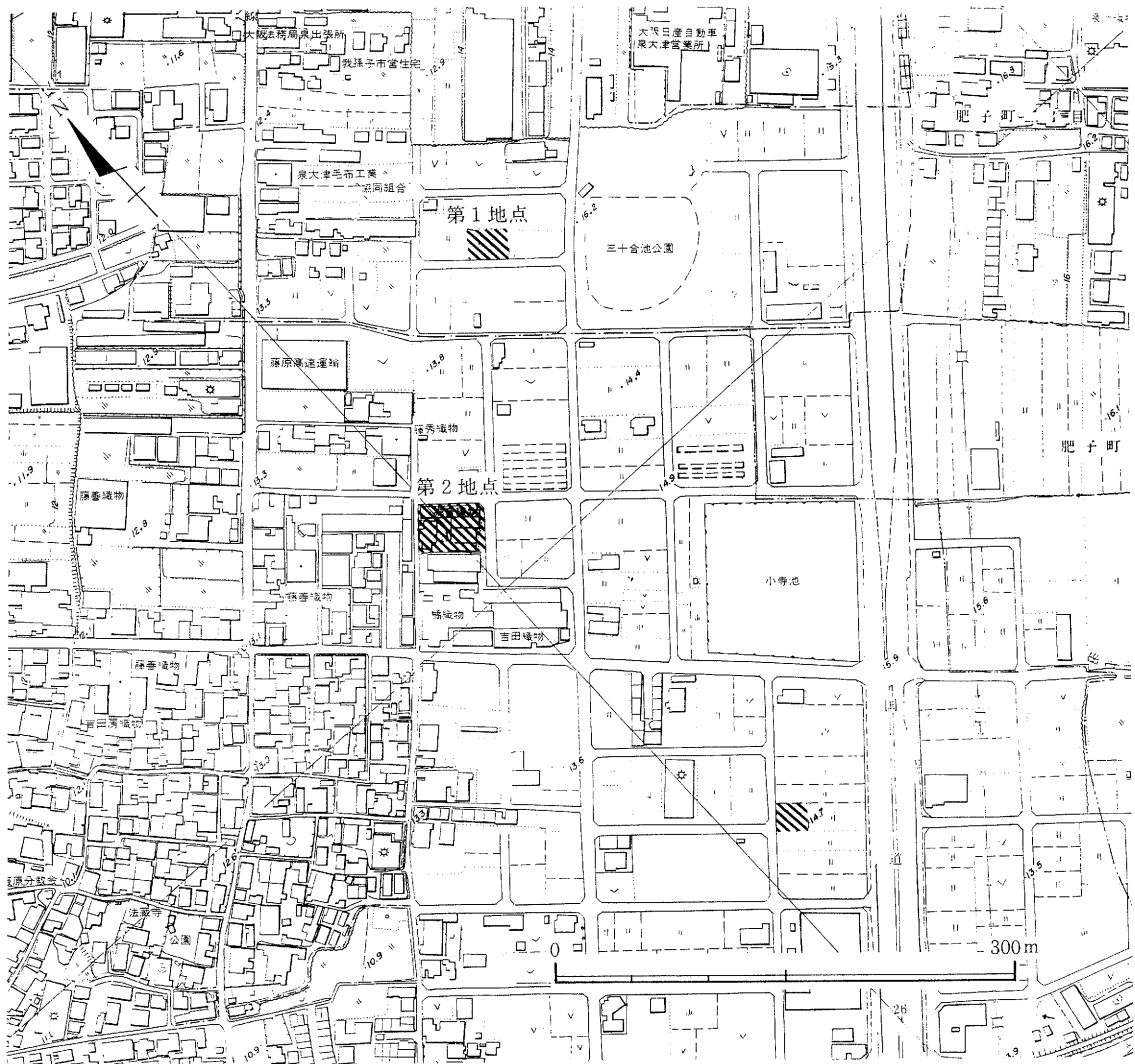
第5節 板原遺跡

I 遺跡の概要

泉大津市板原の水田地帯は市の南部に位置し、南側は横尾川・松尾川の氾濫源を隔てて忠岡町と、又、東側是和泉市肥子町と接している。昭和50年代の中頃までは、目立った道路もなく、条里制施行の跡を示す水田が存在するのみであった。この地域に於て土地区画整理がなされ、第2阪和国道（現国道26号線）が建設されたことにより、整然とした街路が縦横に走り、それに沿って新しく土地開発が行なわれつつある。これらの工事に先立ち道路部分に於て発掘調査が実施されたが、特に第2阪和国道部分に於ては、多くの成果を得ることができた。²⁵

昭和52年に、豊中・古池遺跡調査会の試掘調査により、第2阪和国道敷地内から縄文土器・須恵器・瓦器・磁器等の破片が出土し、特に縄文土器は炭と同時に発見され、各々の時代に属する遺構の存在が予想された。それにより、昭和54年度に府教育委員会が国道部分を全面調査した結

果、縄文時代後期の自然流路及び土器、晩期の溝状遺構、ピット等と土器が発見された。弥生時代の遺構は検出されなかったが、僅かながら遺物が出土している。古墳時代前期の遺構や井戸、平安時代の建物のほか、鎌倉時代には、小規模な建物群が存在するなど中世にまで及ぶ複合遺跡であることが判明した。以後ほぼ毎年工事に先立つ調査を実施しているが、きわだった成果はあがっていない。今後の調査に期待される。



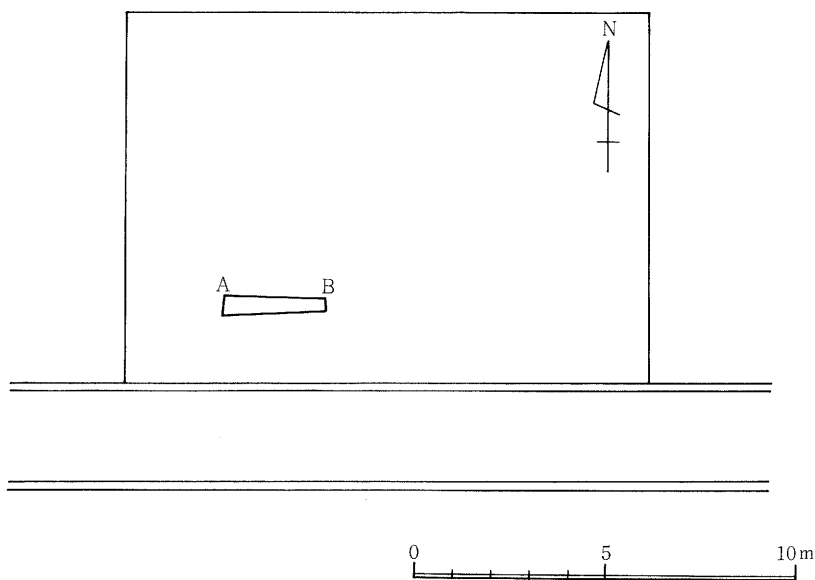
第35図 板原遺跡調査地点図(1:5,000)

II 調査結果

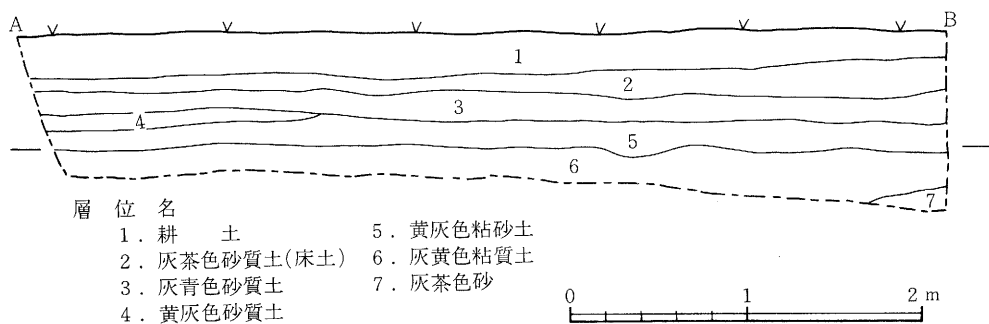
第 1 地点 (我孫子617-1、板原1001 調査番号9010)

倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は530.19㎡である。

敷地内の東南端に幅0.8m、深さ0.8~1.1m、長さ5.3mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。



第36図 板原遺跡 第1地点掘削位置図



第37図 板原遺跡 第1地点 北壁断面図

層序は上部から耕土14～26cm、灰茶色砂質土（床土）6～20cm、灰青色砂質土10～20cmと続く。灰青色砂質土の下層には、黄灰色粘砂土最大厚約8cmがみられるが、西端でのみ認められる。以下、黄灰色粘砂土10～22cm、灰黄色粘質土最大厚約30cmに至る。灰黄色粘質土の下層には、灰茶色砂最大厚約13cmが、東端でわずかに認められる。灰青色粘質土より土師器、瓦器が少量出土したが、いずれも小破片であるため図示し得ない。

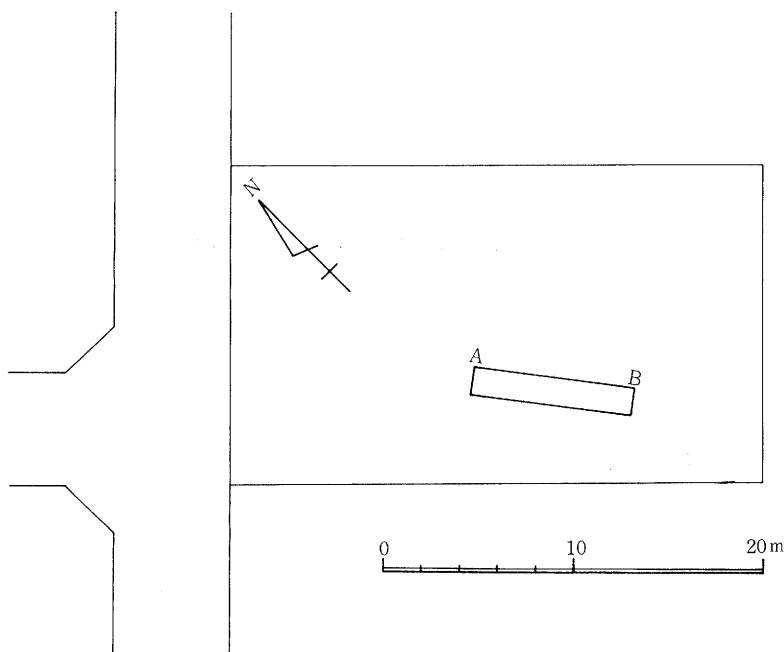
遺構は確認できず、付近の既往調査結果とも考えあわせ、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

第 2 地 点 (板原1247-1 調査番号9020)

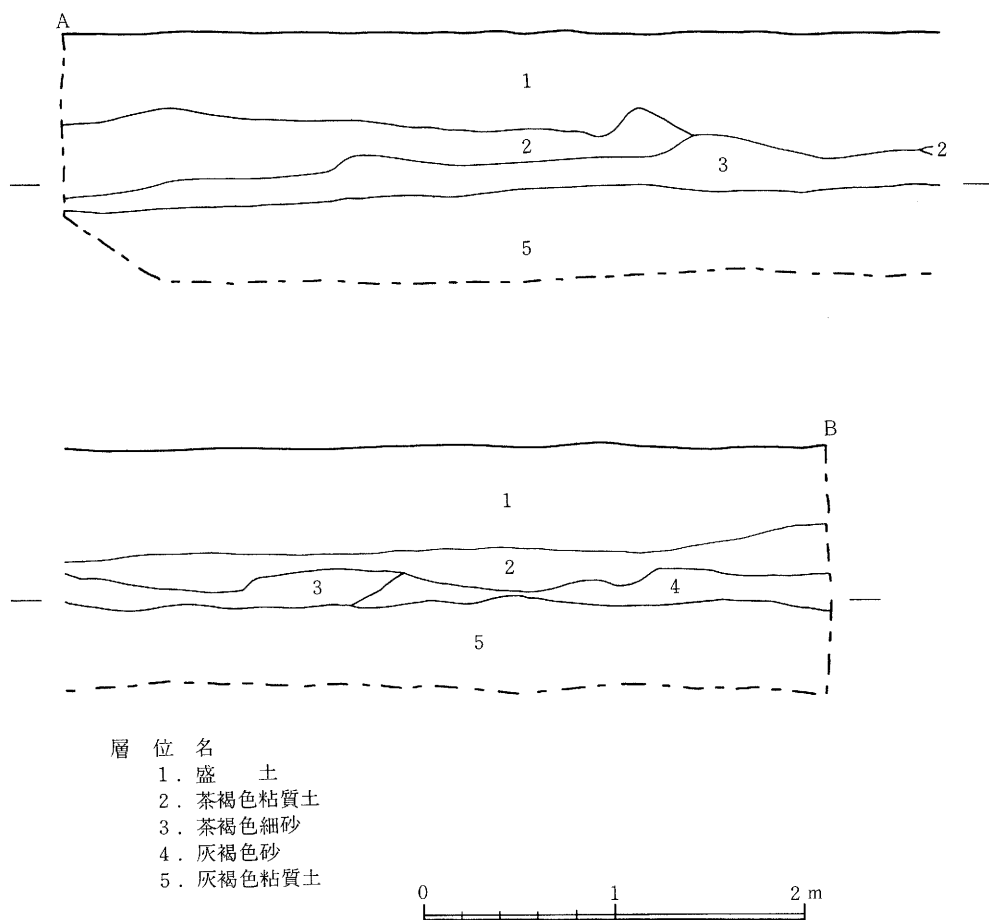
敷地内の北隅に幅1.4m、深さ1.8m、長さ8.2mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土40～64cm、茶褐色粘質土最大厚約40cm、茶褐色細砂最大厚約28cmで、茶褐色細砂の東端では灰褐色砂が最大厚約18cmで認められ、灰褐色粘質土約50cm以上に至る。

遺構・遺物は認められず、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第38図 板原遺跡 第2地点掘削位置図



第39図 板原遺跡 第2地点 東壁断面図

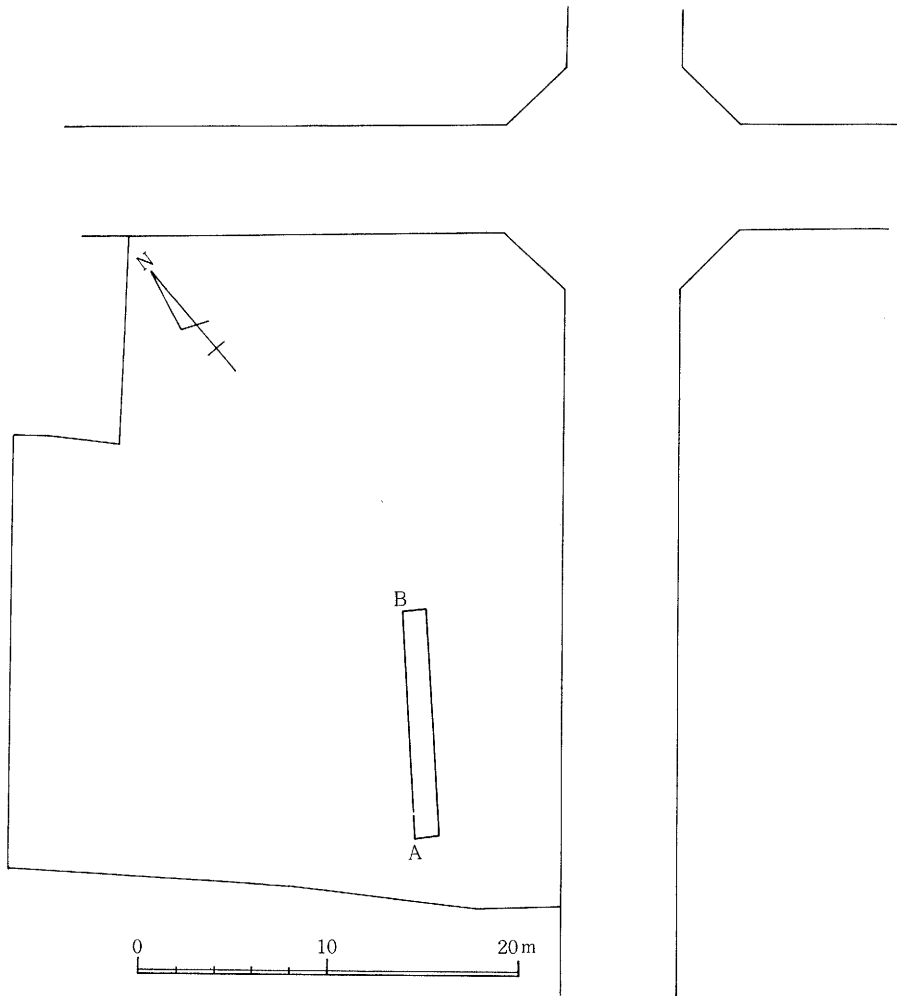
第 3 地 点 (板原1081 調査番号9021)

工場建設工事に先立つ調査である。敷地面積は940.61㎡である。

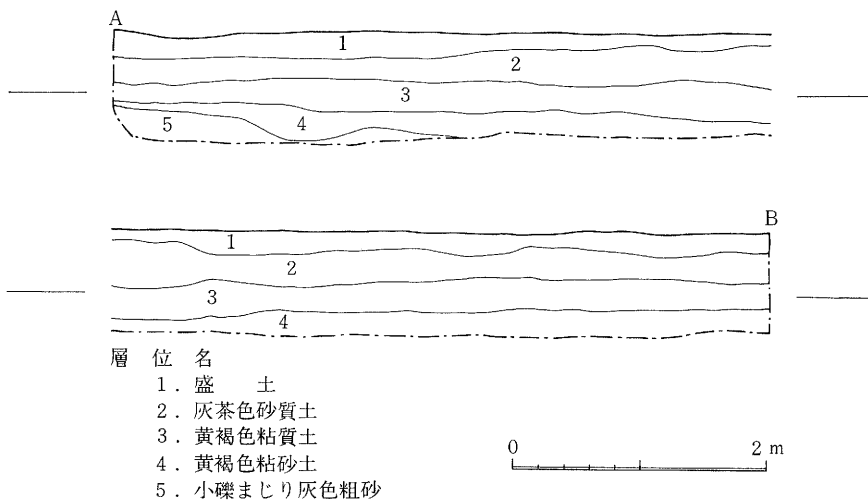
敷地内の北端に幅1.3m、深さ0.8m、長さ12.0mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び断面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土10～20cm、灰茶色粘質土15～40cm、黄褐色粘質土15～30cm、黄褐色粘砂土20cm以上となり、南側では小礫まじり灰色粗砂がみられる。

遺構・遺物等は確認できなかったため、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。



第40図 板原遺跡 第3地点掘削位置図



第41図 板原遺跡 第3地点 西壁断面図

第6節 池浦遺跡

I 遺跡の概要

弥生時代前期中段階に始まる市内でも最も古い弥生時代集落として知られている。しかし、その存続期間は短かく、前期の段階で衰退してしまうようである。集落の規模もさほど大きくはなく、現在の泉大津市立病院東側から東へ500mの範囲にかけてのみ、その時期の遺構・遺物が検出される。だが、人々が生活を営んだ住居の跡は今のところ発見されておらず、集落を画すると思われる小規模な人工のV字溝及び、断定はできないが、柱穴と思われるピットが発見されているのみである。その次の時期の遺物は古墳時代に属するもので、既往の調査によると、砂利層や低湿地から須恵器片が多数出土している。又付近の水田には、須恵器や土師器の破片が散布し、その範囲は凡そ800m×400mと広範囲にわたる。



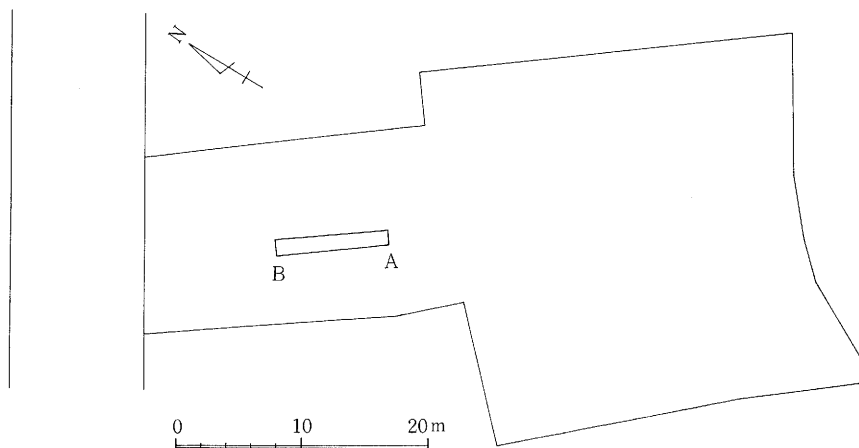
第42図 池浦遺跡調査地点図(1:5,000)

II 調査結果

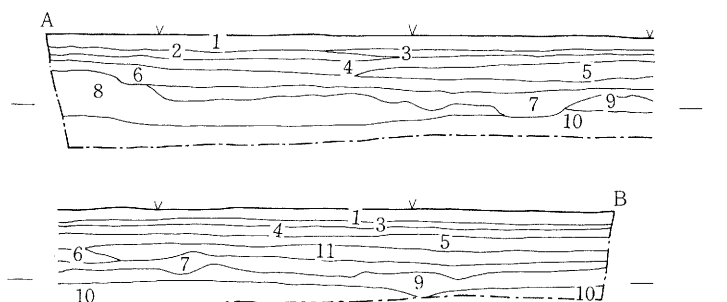
調査地点 (池浦町5丁目317-1 調査番号9022)

倉庫付事務所建設工事に先立つ調査である。敷地面積は989.79m²である。

敷地内北端に幅1.4m、深さ0.9m、長さ9mの調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。



第43図 池浦遺跡 調査地点掘削位置図



- | 層位名 | |
|-----------|------------|
| 1. 耕土 | 7. 茶灰色砂質土 |
| 2. 灰黄色土 | 8. 暗褐色粘砂土 |
| 3. 灰色土 | 9. 茶灰色粘質土 |
| 4. 黄色砂質土 | 10. 黄灰色砂質土 |
| 5. 灰黄色砂質土 | 11. 暗灰色砂質土 |
| 6. 灰黄色粗砂 | |

0 2 m

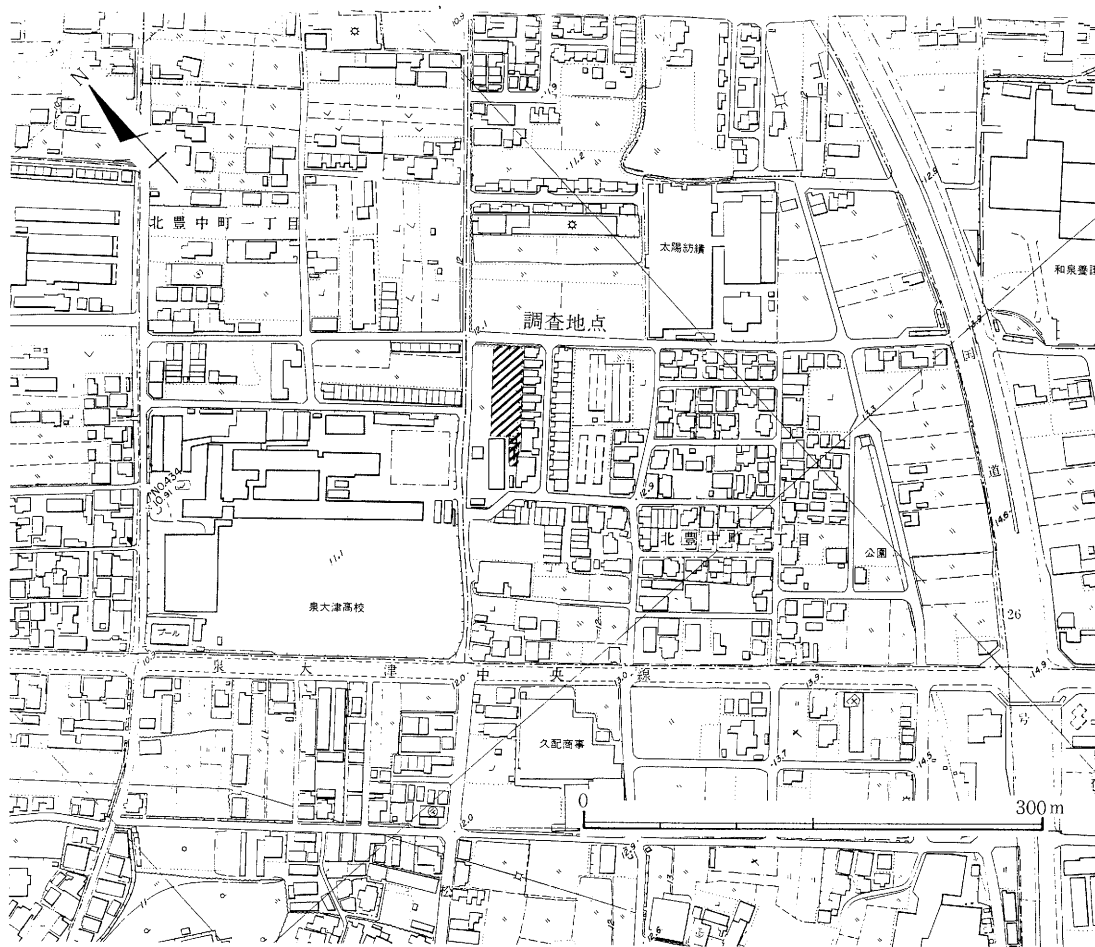
第44図 池浦遺跡 調査地点 西壁断面図

層序は上部から耕土12cm、灰色土4cm、黄色砂質土5～10cm、灰黄色砂質土6～12cm、灰黄色粗砂質土10cmで、灰黄色粗砂質土は西方向へ行くと暗灰色砂質土に変る。その下は茶灰色砂質土4～20cmで、更に下層は東側で暗灰色粘砂土、西側で茶灰色粘質土となり、黄灰色砂質土がその下にみられる。

第7節 七ノ坪遺跡

I 遺跡の概要

七ノ坪遺跡は、北豊中町一帯に所在する弥生時代から古墳時代・中世に属する遺跡である。昭和32年の冬、府立泉大津高等学校北門前の水田・通称「七ノ坪」において地下げ工事が行われた。



第45図 七ノ坪遺跡調査地点図(1:5,000)

その際、同校地歴部員によって土師器片が採集されたのを契機として、「七ノ坪遺跡」と名付けられた²⁶。昭和43年以來同校校舎の増改築工事に先立ち、府教育委員会の実施した発掘調査²⁷や同校地歴部による試掘調査、又、周辺部における府・市教育委員会の調査²⁸で、弥生時代後期の溝・水田跡、古墳時代初期の溝・水田跡の外に4世紀前半の土壇・溝等が発見され、複合遺跡であることが知られている。今回報告するのは前年度に実施した調査で、前回報告できなかったものである。

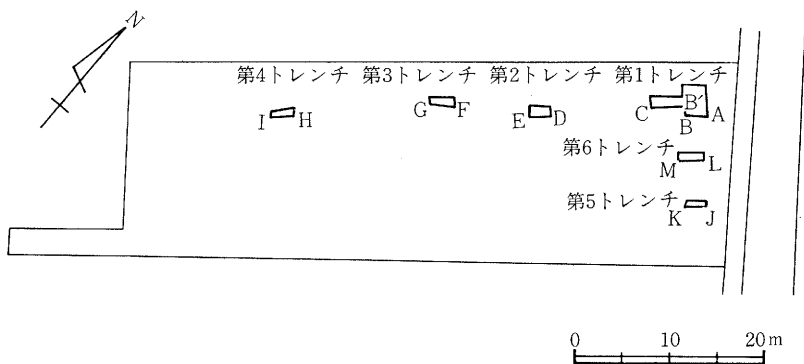
II 調査結果

調査地点（北豊中町2丁目503-1、504 調査番号9005）

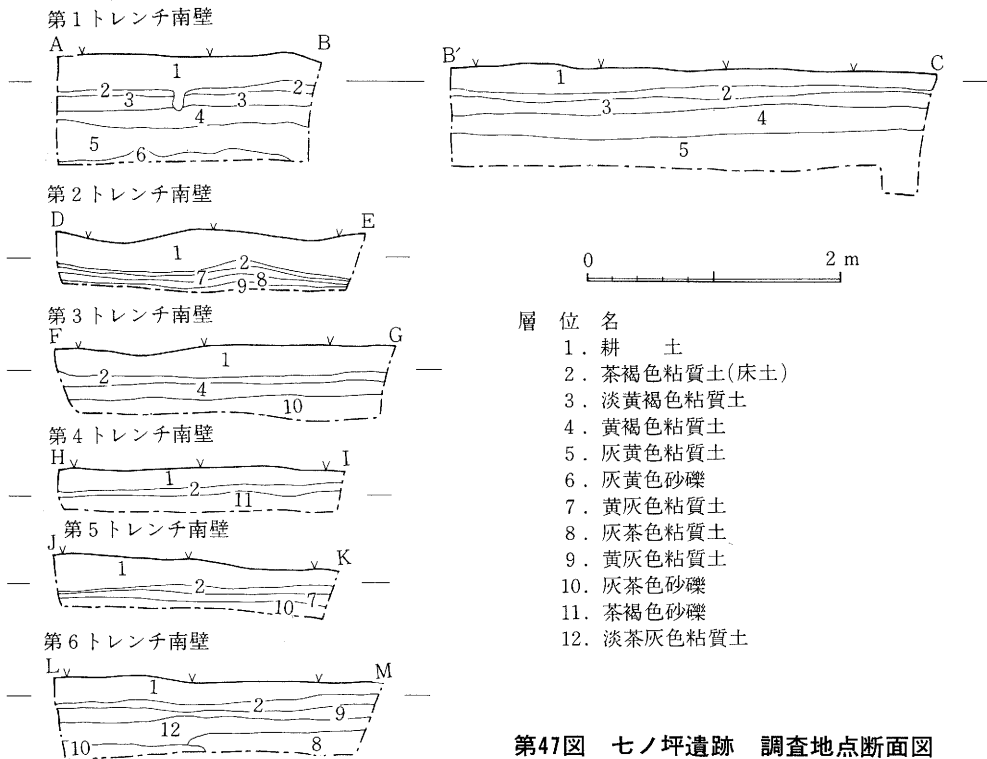
駐車場造成工事に先立つ調査である。敷地面積は1377.0㎡である。

敷地の北端に幅1.5m、深さ0.8m、長さ3.9m〔第1トレンチ〕、幅1.5m、深さ0.3~0.6m、長さ2.4m〔第2トレンチ〕、幅1.5m、深さ0.5m、長さ2.7m〔第3トレンチ〕、幅1.5m、深さ0.3m、長さ2.1m〔第4トレンチ〕、また、敷地の東端に幅1.0m、深さ0.4m、長さ2.0m〔第5トレンチ〕、幅1.0m、深さ0.6m、長さ2.6m〔第6トレンチ〕の規模の調査坑を設定した。それぞれの調査坑は重機により掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

各トレンチの層序は図の様で、粘土層の堆積の下層に砂礫層が認められる。この砂礫層は西方向に行くに従って浅い所でみられるようである。特に第3、4トレンチでは激しい湧水がみられた。遺物は第1トレンチの北側で検出されたため、第1トレンチを北方向に幅4.0m、深さ0.8m、



第46図 七ノ坪遺跡 調査地点掘削位置図



第47図 七ノ坪遺跡 調査地点断面図

長さ2.5mに掘削した。その結果、灰黄色粘質土直上で、3ヶ所に散乱する遺物を検出した。遺物は第1トレンチでのみ検出された。

当該地の西隣りでは、1989年度の調査で南北方向に流れる自然流路が検出されている。このため今回はその流路の一部がかかると想定されたが、遺構の検出には至らなかった。調査区南側には砂礫層が広く堆積していると思われ、自然流路は南方向に大きく蛇行している可能性もある。遺物の取り上げ及び壁面の写真撮影、断面図作成を行い調査を終了した。

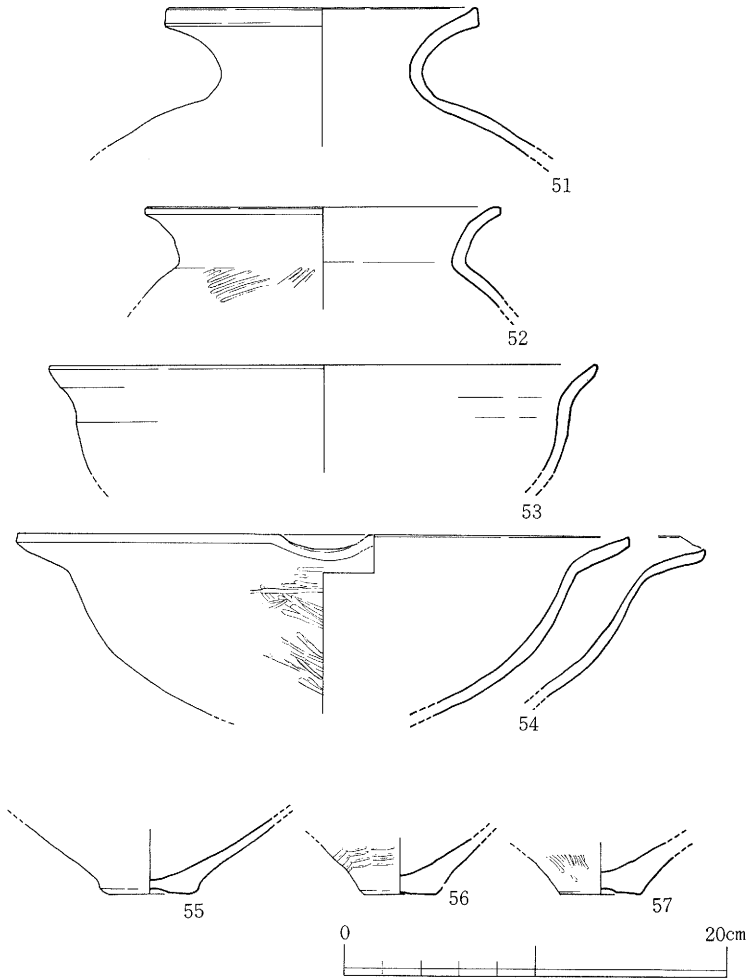
遺物

第1トレンチでのみ検出された。破片が多く遺存状態は悪い。

51は壺形土器の口縁部である。短い頸部から屈曲して外反する口縁部をもつ。端部に面をなし、上方向にわずかにつまみ上げる。張りの強い胴部をもつと思われる。磨滅が激しく調整は不明である。52は甕形土器の口縁部である。「く」の字状にゆるやかに屈曲する頸部を持ち端部はわずかに面をなす。外面に左下がりのタタキ目がみられる。

53、54は鉢形土器である。53はやや内弯する胴部から、ゆるやかに外反する口縁を持つ。端部は丸くおさめる。磨滅が激しく調整は不明である。端部にわずかに黒斑が認められる。54は片口鉢である。内弯する胴部から、外上方に開く口縁部を持つ。端部は面をなし、上方向にわずかにつまみ上げる。口縁部外面はヨコナデ、胴部外面にはへら磨きが施されるが、内面は剝離が激しく、調整は不明である。胴部外面に黒斑が認められる。

55～57は、それぞれ51、52、54の底部と思われる。55は平底で、外面に黒斑が認められる。胎土中に $\phi 1\text{mm}$ 以下の白色粒を多数含む。56は平底で、木の葉底を呈する。外面にタタキ目がみられるが、内面は磨滅が激しい。57は平底で、中央部の窪みが顕著である。外面はタテ方向のへら磨きが施され、胎土中に金雲母を含む。外面に黒斑が認められる。



第48図 七ノ坪遺跡出土遺物

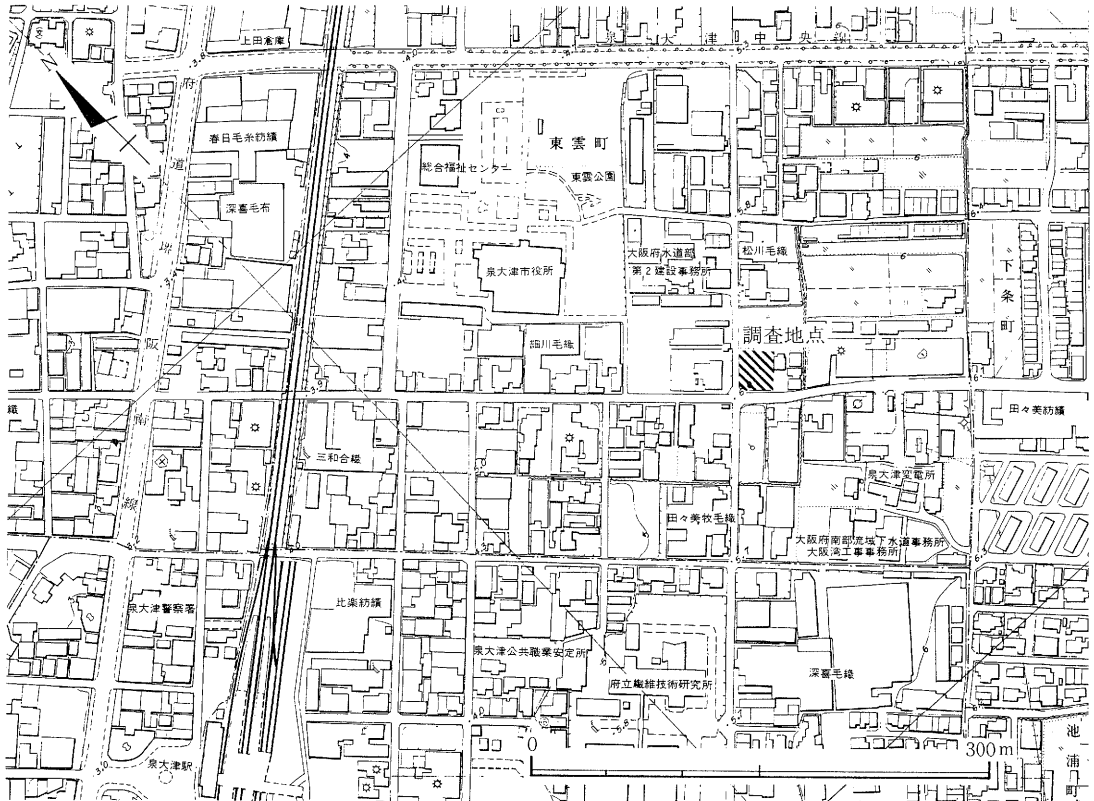
第8節 東雲遺跡

I 遺跡の概要

昭和52年、東雲地番で大阪府南部流域下水道・南大阪湾岸工区事務所の建設工事着工直後、水田の耕土を除去した段階で、市民より付近において以前工事中多量の土器が出土していることから、調査の必要があるのではないかとの指摘があった。府・市両教育委員会は府下水道事業所と協議の結果、事前に発掘調査を実施することになり、豊中・古池遺跡調査会が調査を行った。これが東雲遺跡発見の発端である。

この調査で、古墳時代前期の堅穴住居址2軒、井戸2基、溝2条が発見された。又、中世の掘立柱建物16棟が検出され、主軸方向から4期に分けられると推定される。

続いての調査^③は昭和61年に実施されたもので、上記の場所の東隣りの部分である。この調査では、掘立柱建物1棟の外、多数のピットが検出されたが中世遺物は1点も出土していない。掘立柱建物の建設時期にも疑問を残す結果となっている。



第49図 東雲遺跡調査地点図(1:5,000)

本遺跡は市内で最も海岸寄りになる集落遺跡で、付近は宅地化が進んでいるため調査を実施する機会はありません、実態の把握が難しい遺跡である。

II 調査結果

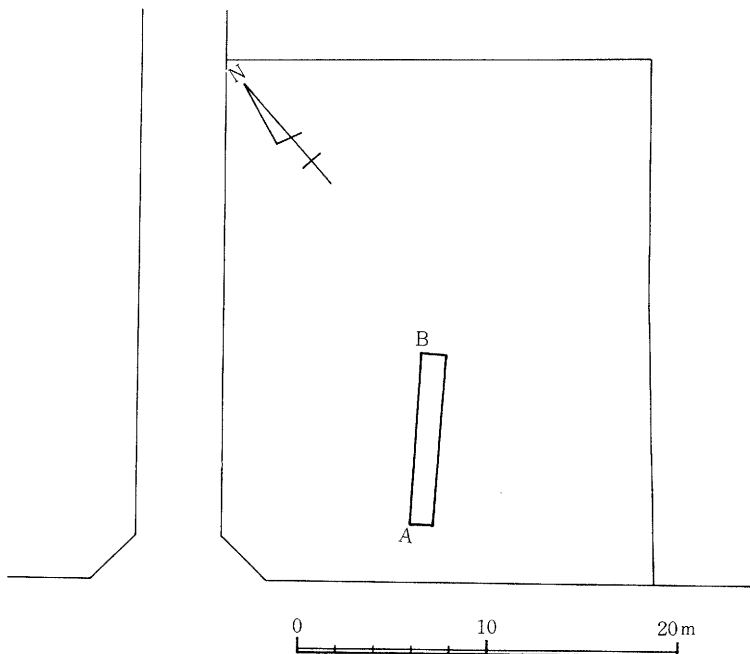
調査地点（東雲町78-1 調査番号9008）

共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は597.15㎡である。

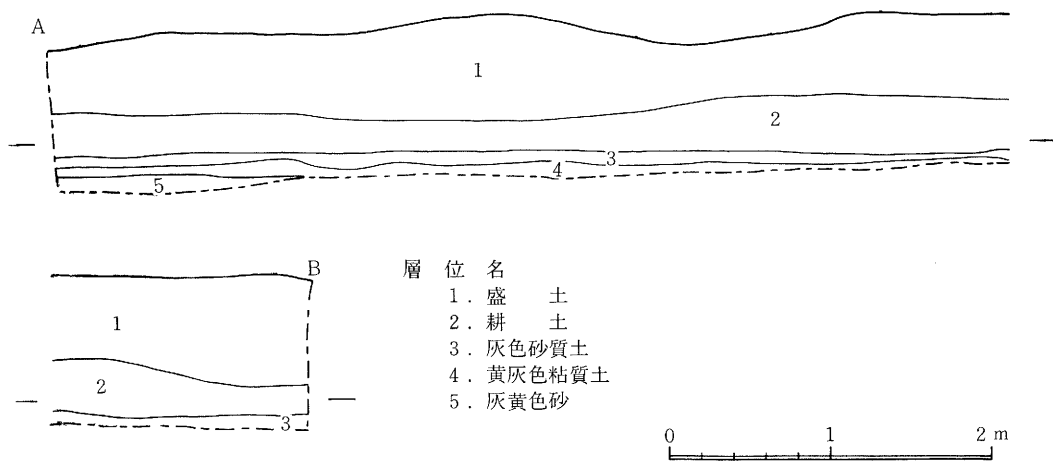
敷地内の南部分中央に幅1.3m、深さ0.9~1.0m、長さ8.6mの規模の調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から盛土36~54cm、耕土19~40cm、灰色砂質土2~10cm、黄灰色粘質土最大厚約10cmである。黄灰色粘質土の下層には灰黄色砂がみられるが、西端でしか確認できない。最大厚は約10cmである。

黄灰色粘質土は、須恵器、瓦器片が含まれ、中世遺物包含層と思われるが、小破片が多く図示し得ない。



第50図 東雲遺跡 調査地点掘削位置図



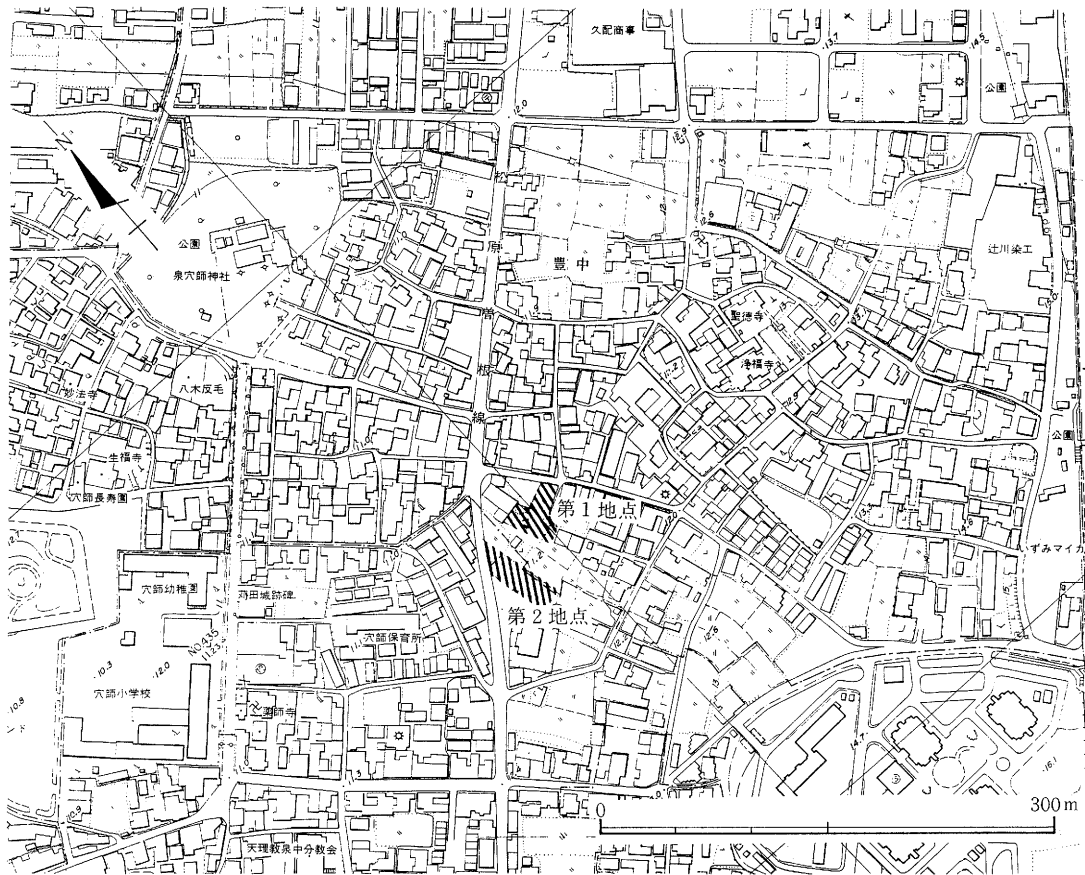
第51図 東雲遺跡 調査地点 北壁断面図

第9節 荊田城跡

I 遺跡の概要

穴師保育所より南へ約150mの範囲は、小字名が「城」となっている。中世の史料によれば、享禄4年(1531年)5月13日、三好元長が細川高国と戦った際、「我孫子荊田城ニ陣ス」とあり、「荊田城」の所在がこの地に相当すると考えられている。周辺地域でも同様のことが伝えられており、中世の城館の存在が想定される。

本遺跡の試掘調査は昨年度より開始され、今年度は2件の試掘調査を実施した。今回の調査では遺構・遺物は確認できず、遺跡の実態は明らかにされていない。今後も引き続き調査を実施する必要がある。



第52図 荻田跡調査地点(1:5,000)

II 調査結果

第 1 地 点 (豊中762-1、764、765 調査番号9018)

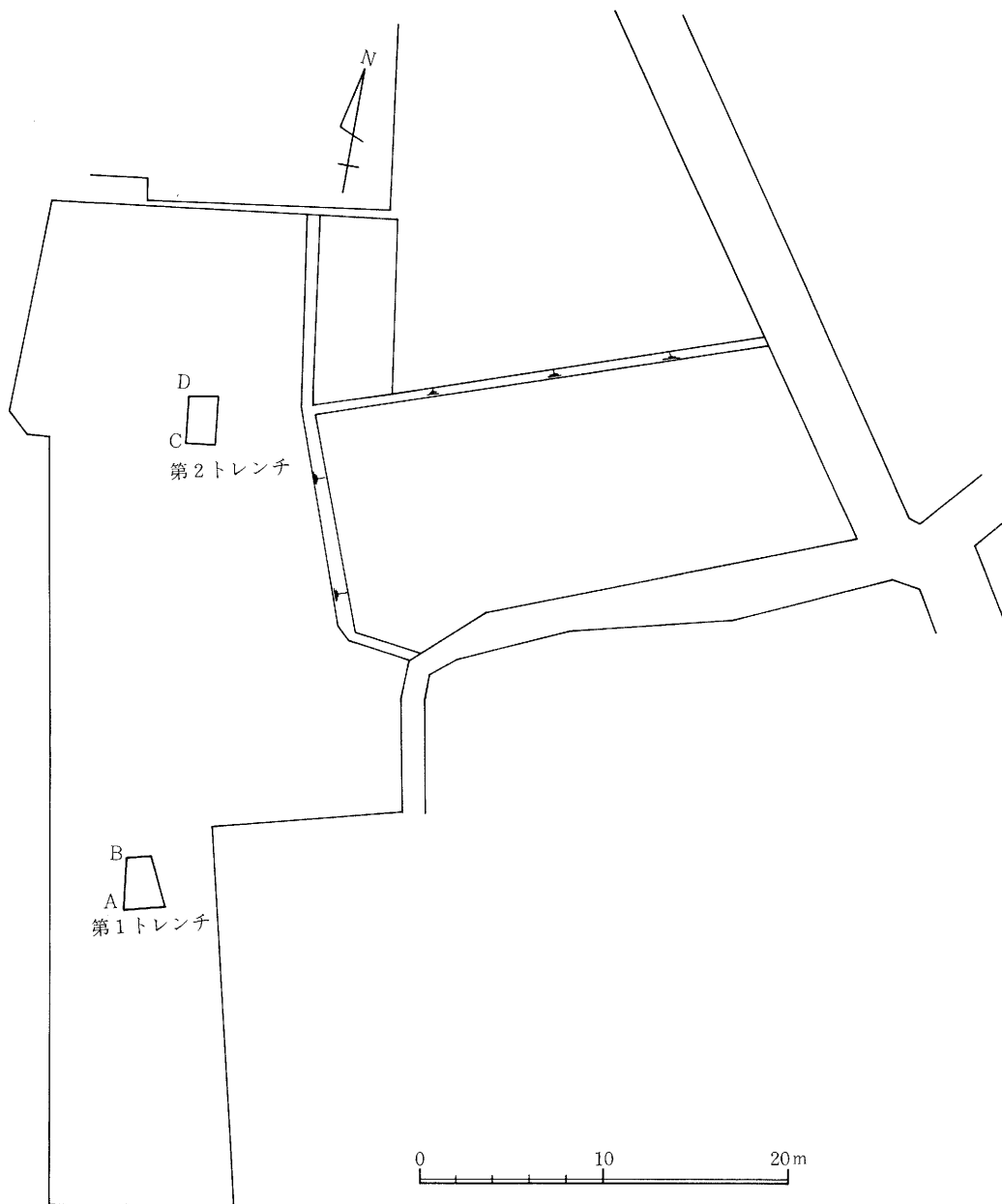
共同住宅建設工事に先立つ調査である。敷地面積は925.32㎡である。

敷地内の南部及び北部に幅1.3m、深さ0.5m、長さ2.7m〔第1トレンチ〕、幅1.6m、深さ0.6m、長さ2.7m〔第2トレンチ〕の規模の調査坑を設定した。二箇所とも重機による掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

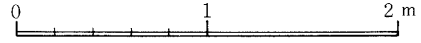
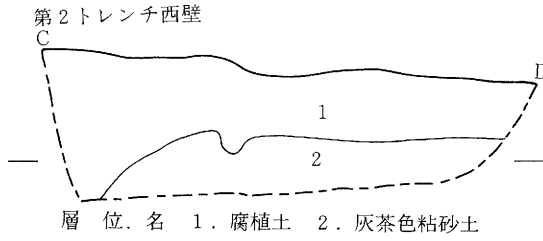
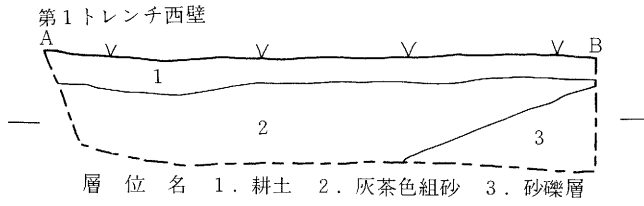
第1トレンチの層序は上部から耕土10~16cm、灰茶色細砂10cm以上と続き、北側では砂礫層が幅広く認められるようである。第2トレンチの層序は上部から腐植土最大厚80cm、灰茶色粘砂土10cm以上と続く。

当該地は小字名「城」付近に位置し、遺構・遺物の検出が予想されたが、今回はそれらの検出

には至らなかった。今回及び前年度の調査結果より、この付近は地表から比較的浅いところで広範囲に砂層が存在することが確認された。同遺跡内の調査は今回で2件目で、今後も試掘を行う必要があると考える。

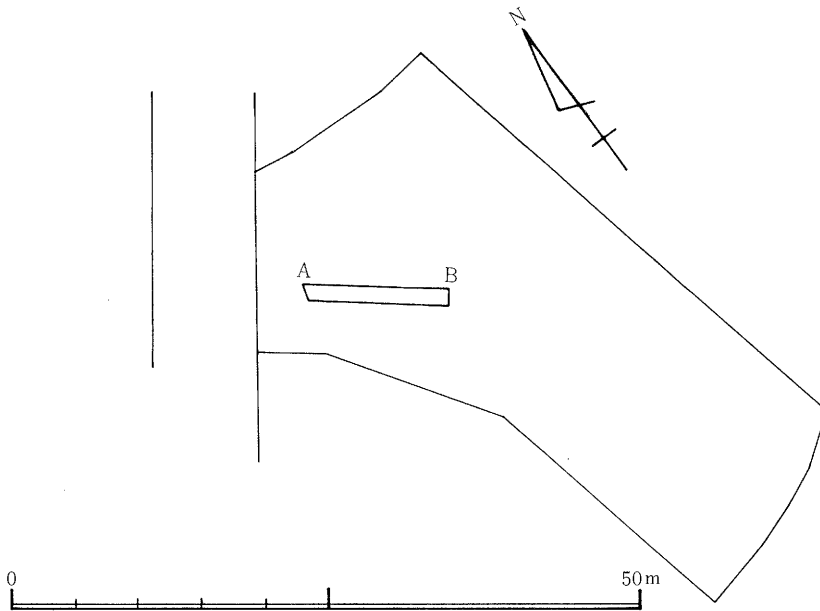


第53図 苅田城跡 第1地点掘削位置図

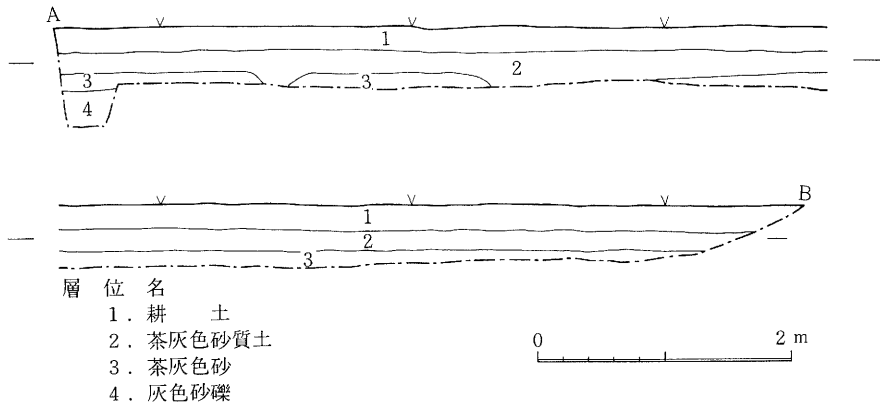


第54図 刈田城跡 第1地点 断面図

第 2 地 点 (豊中946-1 調査番号9023)



第55図 刈田城跡 第2地点掘削位置図



第56図 荻田城跡 第2地点 北壁断面図

倉庫建設工事に先立つ調査である。敷地面積は907.13㎡である。

敷地内の南西部に幅1.1m、深さ0.5m（一部0.8m）、長さ12mの調査坑を設定し、重機にて掘削を行い、その後人力で壁面及び床面を削り、断面・床面観察による調査を実施した。

層序は上部から耕土約20cm、茶灰色砂質土20～30cmで、その下は西側で茶灰色砂約12cm、東側で黄灰色砂約10cmとなり、下部は灰色砂礫となる。

遺構・遺物は検出されなかったため、壁面の写真撮影及び断面図を作成して調査を終了した。

付近2箇所の既往調査でも同様の層序を示し、遺構・遺物は検出されていない。字名から荻田城関係の建物の存在を想定させられるが、痕跡を残していないものとも思われる。

表5 遺物観察表

挿図番号	出土地点(層)	器種	法量(cm)	焼成	胎土	色調()内面	技法の特徴	備考
5-1	灰黄色粘砂土	土師器小皿	(口径) 6.95 (器高) 1.65	良好	微砂粒を含み密	淡橙色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部指おさえの ちナデ	
2	灰黄色粘砂土	土師器小皿	(口径) 6.8 (器高) 1.55	良好	乳白色砂粒、石英、 長石を含み密	乳灰白色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部指おさえの ちナデ	
3	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.2 (器高) 1.6	良好	白色砂粒多く含み密	橙茶色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部指おさえ	
4	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 6.6 (器高) 1.3	良好	白色砂粒多く含み密	乳灰色	(内外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ のちナデ	
5	灰黄色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.3 (器高) 1.45	良好	微砂粒、石英、長石 を含み密	乳灰色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部ナデ、部分的 に指おさえ	
6	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 8.0 (器高) 1.6	良好	0.1cm位の小石少数 含むが密	明橙色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ (内面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえのちナ デ	
7	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.0 (器高) 1.9	良好	細砂及び微砂粒多く 含むが密	淡茶灰色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部指おさえ	
8	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.2 (器高) 1.6	良好	微砂粒含み密	淡橙色	(内外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ	
9	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.3 (器高) 1.7	良好	0.1cm位の小石数個、 微砂粒多く含むが密	乳白色	(内外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ のちナデ	
10	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.1 (器高) 1.65	良好	0.1cm位の小石数個、 微砂粒多く含むが密	淡橙色	(内外面)口縁部ヨコナデ? 体部指おさえの ちナデ?	全体に磨減激し い
11	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.6 (器高) 1.8	良好	白色粒、石英、長石 含み密	暗橙灰色	(外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ (内面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえのち ナデ	
12	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.5 (器高) 1.95	良好	白色粒多く含み密	淡橙色	(内外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ のちナデ	内面磨減激しい
13	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.7 (器高) 1.15	良好	0.1cm位の小石少数、 微砂粒多数含み密	淡橙白色	(内外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ のちナデ	
14	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.8 (器高推定)1.3	良好	白色粒多数含み密	乳白色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえのちナ デ (内面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ	
15	茶灰色粘砂土	土師器皿	(口径) 10.2 (器高推定)1.4	良好	微砂粒多数含み密	淡橙色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部指おさえの ちナデ	
16	茶灰色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.2 (器高) 1.65	良好	微砂粒、石英、長石 含み密	淡橙茶色	(内外面)口縁部強いヨコナ デ、体部指おさえ	
17	灰黄色粘砂土	土師器小皿	(口径) 7.6 (器高) 1.6	良好	微砂粒、石英、長石 含み密	乳灰白色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ (内面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえのちナ デ	

棟号	出土地点(層)	器種	法量(cm)	焼成	胎土	色調()内面	技法の特徴	備考
5-18	茶灰色粘砂土	土師器皿	(口径) 10.4 (器高推定) 2.4	良好	白色粒、微砂粒多く 含み密	淡橙茶色	(外面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえ (内面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえのち ナデ	
19	茶灰色粘砂土	瓦器	(口径) 10.1 (器高推定) 2.3	良好	微砂粒、石英、長石 含み密	乳灰色	(外面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえ (内面)口縁部強いヨコナデ ヘラミガキ	
20	茶灰色粘砂土	瓦器	(口径) 10.4 (器高推定) 2.4	良好	0.1cm位の小石数個、 微砂粒、白色粒含み 密	灰白色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ (内面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえのちナ デ	
21	茶灰色粘砂土	瓦器	(口径) 11.6 (器高推定) 2.2	良好	微砂粒多数含み密	口縁部：黒灰色 体部：灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ (内面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえのちナ デ	
22	茶灰色粘砂土	瓦器	(口径) 10.0 (器高) 3.0	良好	微砂粒多数含み密	輝灰色	(外面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえ (内面)ナデのちヘラミガ キ	
23	茶灰色粘砂土	瓦器	(口径) 10.4 (器高) 2.15	良好	0.1cm位の小石多数 含むが密	淡黒灰色	(外面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえ (内面)ナデのちヘラミガ キ	
24	茶灰色粘砂土	瓦器	(口径) 11.0 (器高) 3.2	良好	微砂粒多数含み密	黒灰色	(外面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえ (内面)ナデのちヘラミガ キ	
25	灰黄色粘砂土	瓦器	(口径) 10.4 (器高推定) 2.8	良好	0.1cm位の白石小石 数個、微砂粒、白色 粒含むが密	暗灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ	内面磨減激しい
26	灰色砂礫	瓦器碗	(口径) 13.0 (器高) 3.35 (底径) 2.6	やや軟	0.1cm位の細砂多数 含みやや粗	淡茶灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ	内面磨減激しい
27	灰色砂礫	瓦器碗	(口径) 13.0 (器高) 3.4 (底径) 3.8	やや軟	0.1cm位の細砂多数 含みやや粗	淡茶灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体 部指おさえ	内面磨減激しい
28	灰色砂礫	瓦器小皿	(口径) 10.2 (器高) 1.3	良好	微砂粒多数含み密	黒灰色	(内外面)口縁部ヨコナデ、 体部指おさえのち ナデ	
29	灰黄色粘砂土	瓦器	(口径) 16.2	やや軟	0.5~0.1cm位の細砂 多数含み密	黒灰色	(外面)口縁部強いヨコナデ 体部指おさえ	内面磨減激しい
30	灰黄色粘砂土	瓦質羽釜	(口径) 18.2 (鑄径) 25.6	良好	微砂粒多数含み密	淡灰色	(外面)口縁部から鑄部にか けて強いヨコナデ、 体部は板状工具によ る削り (内面)口縁部はヨコナデ、体 部に横方向のハケメ	
31	茶灰色粘砂土	瓦質羽釜	(口径) 19.0 (鑄径) 25.8	良好	白色粒多数含み密	淡黒灰色 (乳白色)	(外面)口縁部から鑄部にか けて強いヨコナデ、 体部は板状工具によ る削り (内面)口縁部はヨコナデ、体 部に横方向のハケメ	鑄部以下外面に スス附着
32	灰色砂礫	瓦質羽釜	(口径) 21.0 (鑄径) 27.6	良好	細砂、石英、長石含 み密	淡灰茶色	(外面)口縁部から鑄部にか けて強いヨコナデ、 体部は板状工具によ る削り (内面)口縁部はヨコナデ、体 部に横方向のハケメ	

挿図番号	出土地点(層)	器種	法量(cm)	焼成	胎土	色調()内面	技法の特徴	備考
5-33	灰色砂礫	瓦質羽釜	(口径) 18.4 (鑄径) 28.0	良好	微砂粒多数含み密	淡灰色	(外面)口縁部から鋳部にかけて強いヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部はヨコナデ、体部に横方向のハケメ	
34	灰黄色粘砂土	瓦質羽釜	(口径) 24.2 (鑄径) 32.2	良好	微砂粒、白色粒多数含み密	淡黒灰色	(外面)口縁部から鋳部にかけて強いヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部はヨコナデ、体部に横方向のハケメ	
35	灰黄色粘砂土	土師質羽釜	(口径) 21.2 (鑄径) 30.8	良好	微砂粒含み密	淡橙色	(外面)口縁部から鋳部にかけて強いヨコナデ、体部は板状工具による削りか？ (内面)口縁部強いヨコナデ、体部は板状工具によるナデ	
36	茶灰色粘砂土	火鉢 ?	(口径) 20.8	良好	微砂粒、クサリ礫多数含み密	淡橙灰色	(内外面)ヨコナデ	
37	茶灰色粘砂土	磁器碗	(口径) 10.0 (器高) 5.3 (底径) 4.0		(素地)密	淡青灰色		
38	茶灰色粘砂土	磁器碗	(口径) 6.6 (器高) 5.75 (底径) 3.7		(素地)密	淡青灰色		
6-40	茶灰色粘砂土	瓦質播鉢	(口径) 29.5	良好	細砂多数含みやや粗	乳白色 (淡灰色)	(外面)口縁部ヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部ヨコナデ、板状工具によるナデのちスリメ	
41	茶灰色粘砂土	瓦質播鉢	(口径) 30.0	良好	白色粒多く含むが密	淡黒灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部ヨコナデ、板状工具によるナデのちスリメ	
42	茶灰色粘砂土	瓦質播鉢	(口径) 30.4	やや軟	0.2~0.3cm位の小石、0.1cm位の細砂多数含み粗	黒灰色 (淡茶色)	(外面)口縁部ヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部ヨコナデ、スリメ	全体に磨減激しい
43	茶灰色粘砂土	瓦質播鉢	(口径) 33.6	やや軟	0.1cm位の小石数個、微砂粒多数含むが密	淡黒灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部ヨコナデ、スリメ	全体に磨減激しい
44	灰黄色粘質土	瓦質播鉢	(口径) 31.2	良好	微砂粒多数含み密	茶灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体部は板状工具による削り (内面)口縁部ヨコナデ、スリメ	
45	灰黄色粘質土	備前播鉢	(口径) 38.0	良好	長石、石英含み密	暗赤茶色	(外面)口縁部は強いヨコナデ (内面)口縁部はヨコナデ、以下スリメ	
7-46	灰黄色粘砂土	土師質甕	(口径) 19.0	良好	白色粒多数含み密	明橙色 (暗茶色)	(外面)口縁部ナデ、体部横方向のタタキ目 (内面)口縁部ナデ、以下ハケメ、部分的に指おさえ	

挿図番号	出土地点(層)	器種	法量(cm)	焼成	胎土	色調()内面	技法の特徴	備考
7-47	茶灰色粘砂土	瓦質甕	(口径) 25.0	良好	砂粒多数含み密	黒灰色	(外面)口縁部ヨコナデ、体部板状工具による削り (内面)口縁部ヨコナデ、以下指おさえ	
48	茶灰色粘砂土	土師質甕	(口径) 37.2	良好	白色粒多数含むが密	乳白色	(外面)口縁部ナデ、体部横方向のタタキ目 (内面)口縁部ナデ、体部板状工具によるナデ	
49	茶灰色粘砂土	土師質甕	(口径) 26.0	良好	白色粒多数含むが致密	明橙色	(内外面)ヨコナデ	
50	茶灰色粘砂土	土師質甕	(口径) 30.6	やや軟	0.1~0.2cm位の小石多数含みやや粗	乳白色	(外面)口縁部ヨコナデ、体部ヨコ方向のタタキメ	内面磨減激しい
8-51	トレンチ1北側 灰黄色粘質土	土師器壺	(口径) 16.0	やや軟	0.1~0.2cm位の小石含みやや粗	淡橙色 (淡灰色)	(内面)頸部指おさえか?	全体に磨減激しい
52	トレンチ1北側 灰黄色粘質土	土師器甕	(口径) 18.4	やや軟	微砂粒多数含み密	淡橙色 (乳白色)	(外面)口縁部ヨコナデ、体部左下がりのタタキメ	内面磨減激しい
53	トレンチ1中央部 灰黄色粘質土	土師器鉢	(口径) 28.6	良好	細砂、金ウンモ含み密	淡橙色 (乳白色)	(外面)体部部分的にタテハケか?	全体に剥離激しい
54	トレンチ1中央部 灰黄色粘質土	土師器鉢	(口径) 32.0	やや軟	白色粒、細砂多数含むが密	淡橙色 (乳灰色)	(外面)口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	内面剥離激しい 体部外面に一部黒斑
55	トレンチ1北側 灰黄色粘質土	土師器底部	(底径) 4.2	やや軟	0.3cm位の小石数個、白色粒多数含みやや粗	乳白色	(外面)底部指おさえのちナデ	全体に磨減激しい 51の底部か?
56	トレンチ1北側 灰黄色粘質土	土師器底部	(底径) 3.4	良好	白色粒、微砂粒多数含むが密	乳白色 (淡茶灰色)	(外面)タタキメ、底部ナデ	内面の磨減激しい 木の葉底 52の底部か?
57	トレンチ1中央部 灰黄色粘質土	土師器底部	(底径) 4.0	良好	白色粒、細砂多数含むが密	淡橙色 (乳灰色)	(外面)縦方向のヘラミガキ	内面磨減激しい 54の底部か?

参 考 文 献

- ① 高石市教育委員会 『大園遺跡発掘調査概要』 1976・3
- ② 和泉市史編纂委員会 『和泉市史・第一巻』 1965・10
- ③ 和気遺跡調査会 『和気』 1979・3
- ④ 大阪府教育委員会 『第二阪和国道内遺跡発掘調査概報－板原遺跡－』 1980・3
- ⑤ 豊中・古池遺跡調査会 『豊中・古池遺跡発掘調査概報 そのⅢ』 1976・3
- ⑥ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報2』 1984・3
- ⑦ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報3』 1985・3
- ⑧ 泉大津高校地歴部 『和泉の古代遺跡』 和泉考古学5号 1961・3
- ⑨ 大阪府「弥生文化と農耕」 『大阪府史』 第一巻 1983・3
- ⑩ 調査時点では要池であったが、古池遺跡となり、現在は豊中遺跡として遺跡分布図に記載されている。
- ⑪ 大阪府教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要』 1974・3
- ⑫ 大阪府教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要Ⅲ』 1984・3
- ⑬ 泉大津市教育委員会 『豊中遺跡発掘調査概要Ⅲ』 1979・3
- ⑭ 大阪府教育委員会 『要池遺跡発掘調査概要Ⅰ』 1975・3
- ⑮ ④に同じ。
- ⑯ ⑥・⑬に同じ。
- ⑰ ②・⑧に同じ。
- ⑱ ⑧に同じ。
- ⑲ ⑧に同じ。
- ⑳ ⑤に同じ。
- ㉑ ⑬に同じ。
- ㉒ ⑦に同じ。
- ㉓ 大阪府教育委員会 『大園遺跡・豊中遺跡範囲確認調査概要』 1974・3
- ㉔ 高石市教育委員会 『大園遺跡発掘調査概要』 1977・3
- ㉕ ④に同じ。
- ㉖ ⑧に同じ。
- ㉗ ⑪に同じ。
- ㉘ 泉大津市教育委員会 『七ノ坪遺跡発掘調査概要Ⅱ』 1982・3
- ㉙ 豊中・古池遺跡調査会 『東雲遺跡発掘調査報告書』 1977・12
- ㉚ 泉大津市教育委員会 『泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報5』 1987・3

版 圖



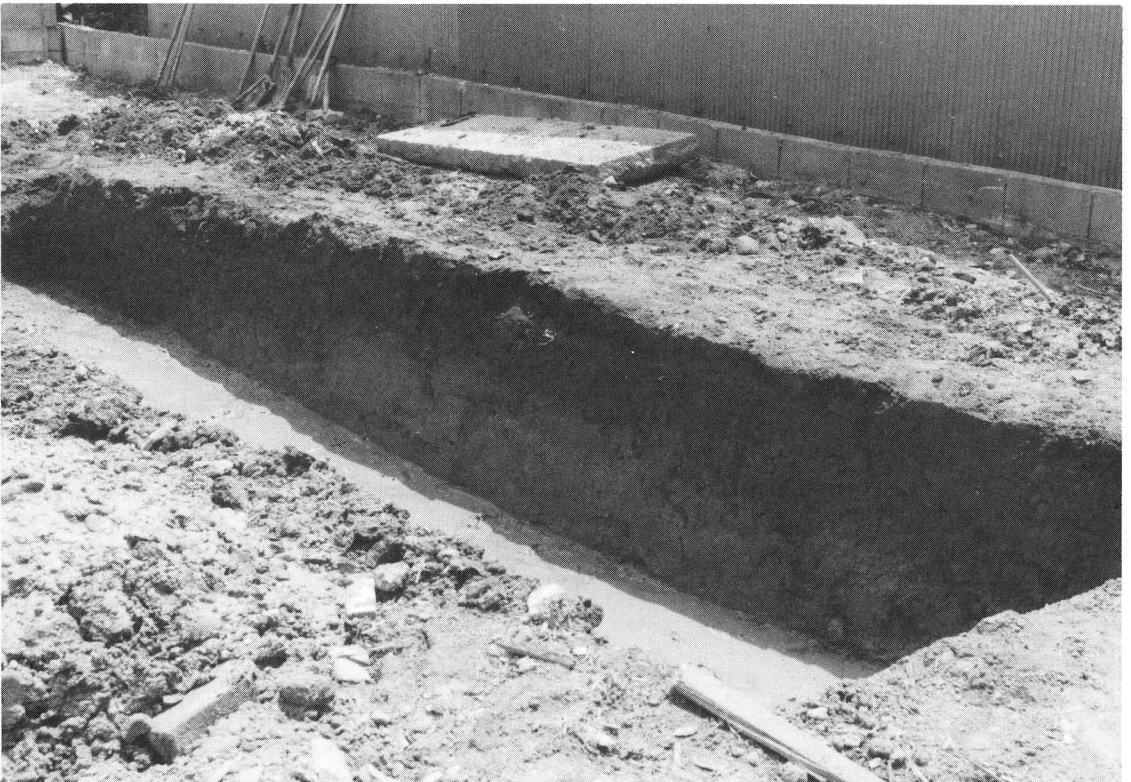
池上・曾根遺跡第1地点



池上・曾根遺跡第1地点



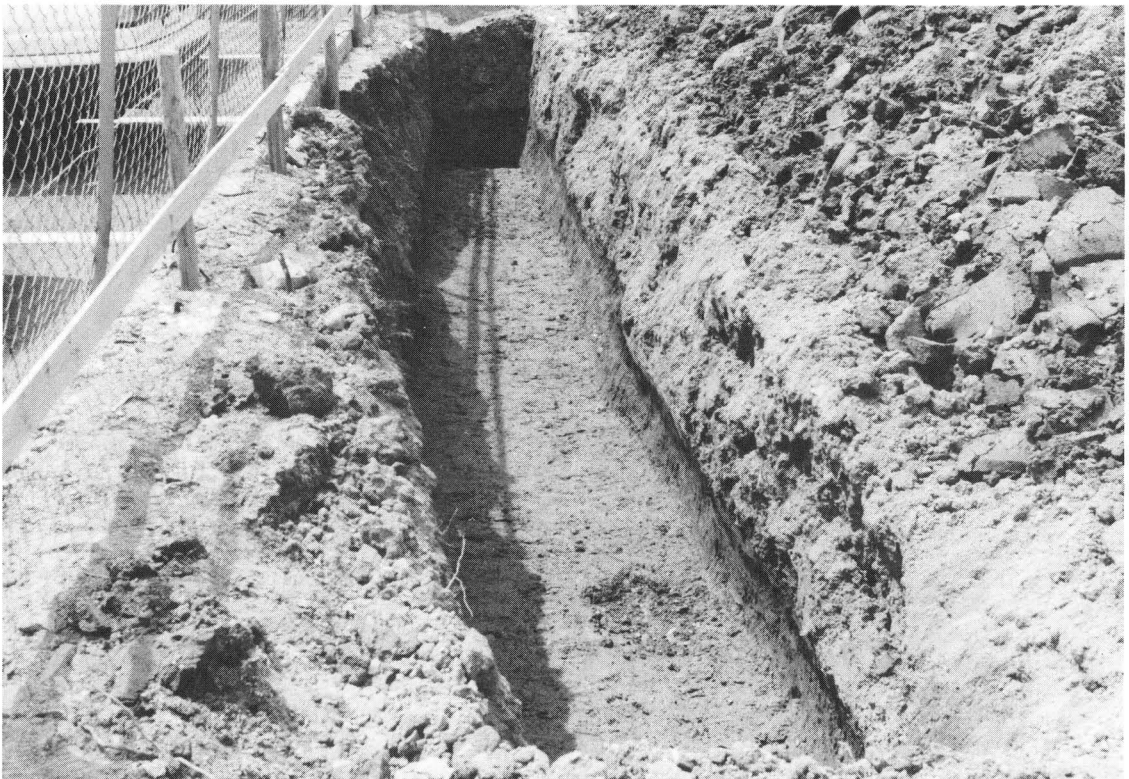
池上・曾根遺跡第2地点調査坑



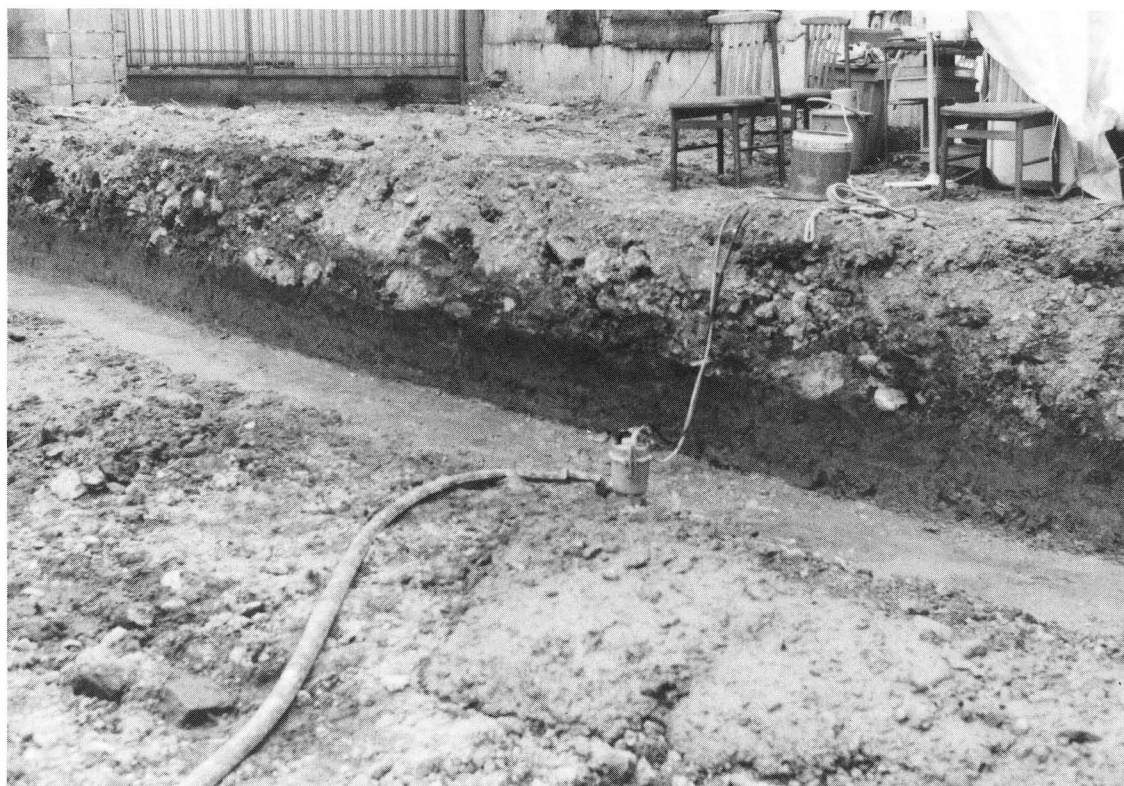
池上・曾根遺跡第3地点調査坑



池上・曾根遺跡第4 地点調査坑



豊中遺跡第1 地点調査坑



豊中遺跡第2地点調査坑



豊中遺跡第3地点調査坑



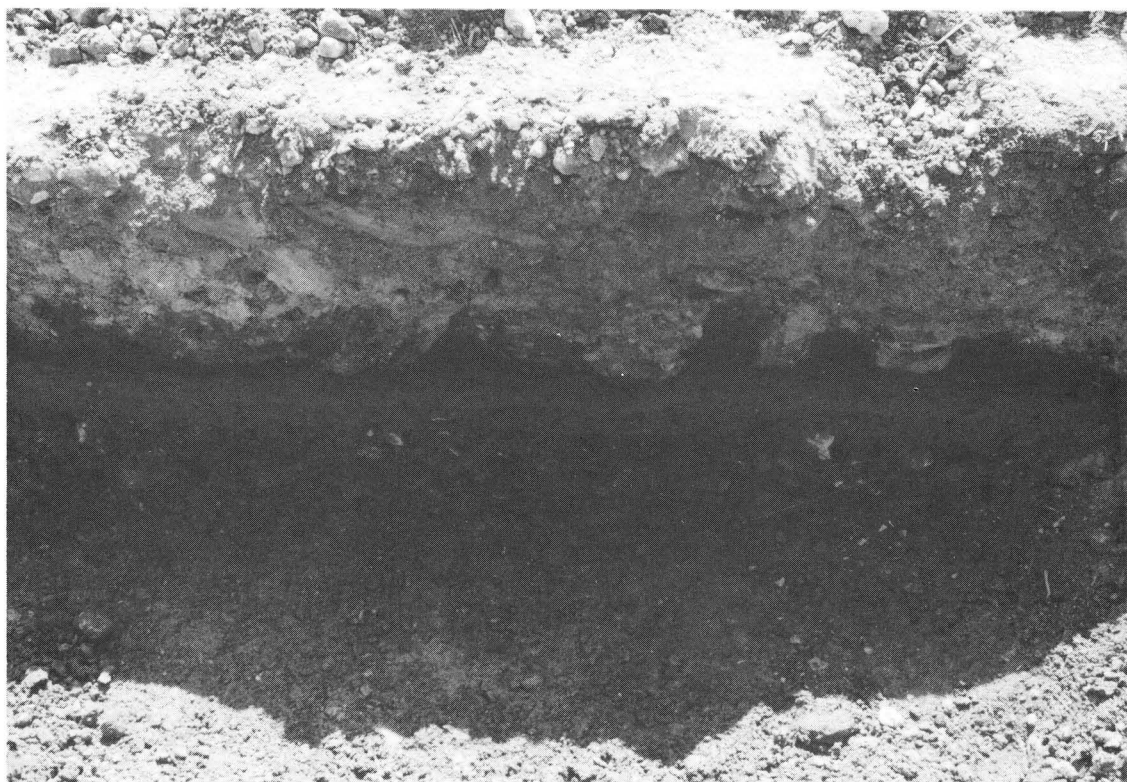
豊中遺跡第4地点第2トレンチ



豊中遺跡第5地点調査坑



豊中遺跡第6 地点調査坑



虫取遺跡第1 地点第1 トレンチ



虫取遺跡第2 地点調査坑



大園遺跡調査坑



板原遺跡第1 地点調査坑



板原遺跡第2 地点調査坑



板原遺跡第3地点調査坑



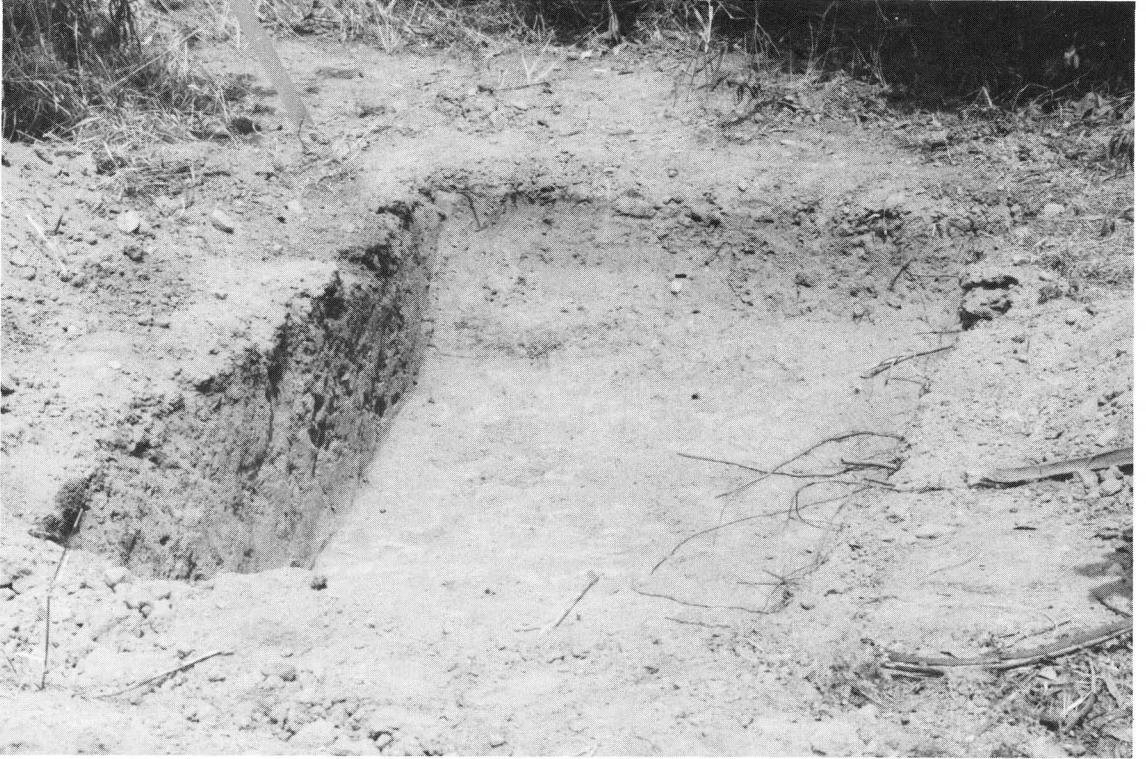
池浦遺跡調査坑



七ノ坪遺跡第1トレンチ遺物出土状況



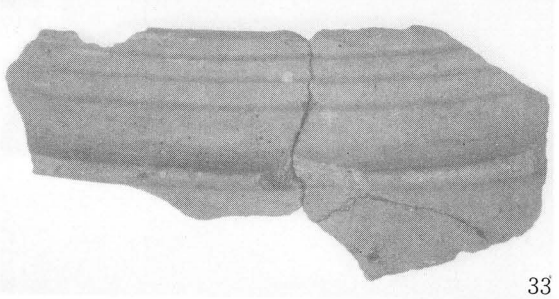
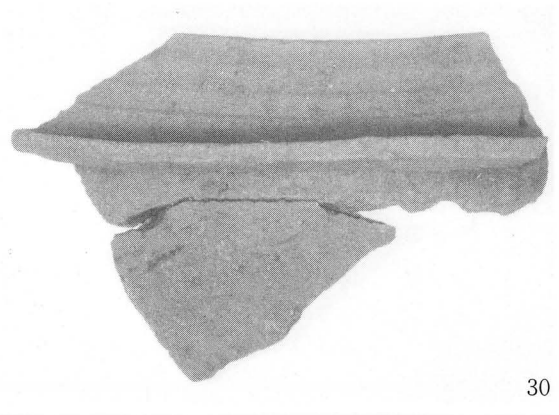
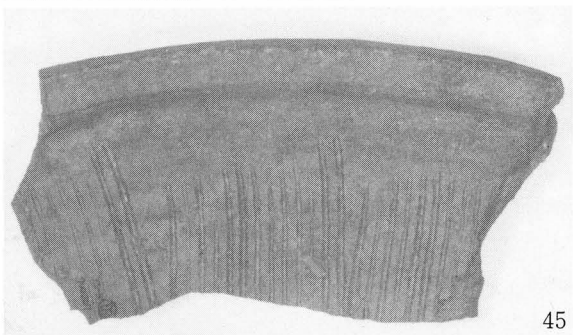
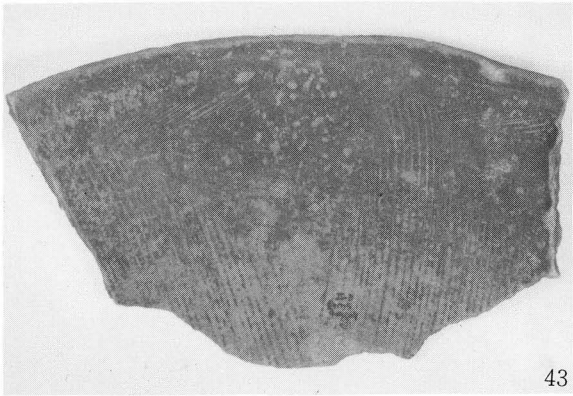
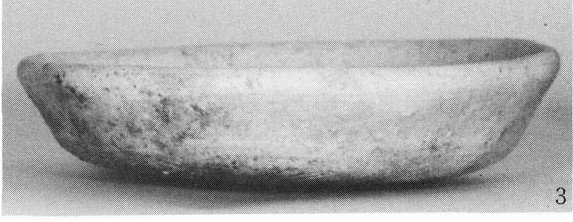
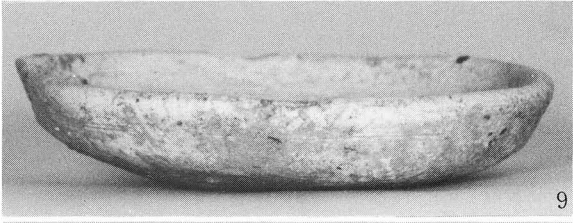
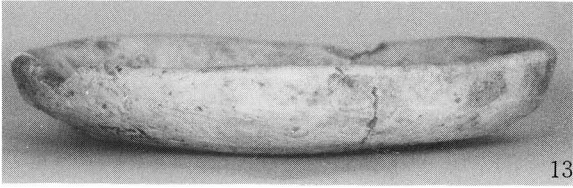
東雲遺跡調査坑



苜田城跡第1地点第1トレンチ



苜田城跡第2地点調査坑



池上・曾根遺跡第1地点出土遺物

泉大津市文化財調査報告21
泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報 9

1991年3月

発行	泉大津市教育委員会
編集	社会教育課 泉大津市東雲町9番12号
印刷	和泉出版印刷株式会社 和泉市池上町460-33

